

已ノ勞力ニヨリテ生産シタル財産若クハ強迫或ハ詐欺ノ手段ニ因ラス贈與又ハ正當ノ約束ニ由リテ其生産者ヨリ讓受シタル財産ノ專有權ヲ承認スルニヨリテ成立スルモノナリ故ニ財産ノ基礎タルヤ其財産ニ對スル生産者ノ特權ニアリテ存スルナリ云々、

是レ素ヨリ贈與權ヲ包含スルモノナリト雖モ相續權ヲ包含スルモノニハ非ラサルナリ今若シ茲ニ他人カ造出シタル財産ニシテ遺言ナクシテ遺サレタルモノアリトセンカ余ハ之ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルモノナルヤト云フニ余ハ只法律カ與フル權利ヲ有スルノミ、而シテ余ハ其財産所有者ノ存命中之ニ對シテ道德上ノ權利ヲ有シタルニ非ラサル限リハ法律カ與フル權利外ニ道德上ノ權利ヲ有スルモノニアラサルナリ例セハ妻ハ法律上及ヒ道

德上ノ權利ヲ有スル者ニシテ丁年ニ達セサル小兒モ亦同シトス然レモ若シ兩親カ其財産ヲ其子ニ與ヘスノ他人ニ贈遺スルコトヲ法律上ニ於テ許ス國ニ於テハ兒童ニシテ丁年ニ達シタル時ハ其財産ニ對シ必スシモ法律上ノ權利ヲ有スルモノニ非ス若シ夫レ米國ニ行ハル、右ノ如キ法律ニシテ道德ニ背反スルモノナリトセンカ、兒童ハ丁年ニ達シタル後ト雖モ尙道德上ノ權利ヲ有スヘキ者ナリ抑モ夫タル者ノ財産ノ一部ハ其妻ノ所有ニ歸スヘキモノナリトハ米國諸州ノ法律カ規定スル所ナリ而シテ親ノ財産ノ一部ハ其子ノ所有スヘキモノナルコトハ各國カ大概是認スル所ナリ然リト雖モ何レノ國ノ法律ニ於テモ財産所有者ヲシテ其財産ノ一部分ヲ其支親族ノ爲メニ遺サシムルコトヲ要求セサルナリ支親族ハ只財産所有者カ之ヲ贈遺シタル場合若シクハ遺言ナキ時法律カ其

所有權ヲ彼等ニ與フルノ場合ニ於テ之ヲ要求スルヲ得ルノミ、然
 ラハ支親族ハ遺言ナキ遺產ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルモノ
 ナルヤ容易ニ斷定スヘカラス、蓋シ財産所有者ハ直接血縁ノ者ニ
 非サルモ苟モ近系ノ親族ニ對シテハ之ヲ補助スヘキ道德上ノ義
 務アルモノナリト云フト雖モ是レ未タ一般ニ承認セラレタルニ
 アラス、其義務ノ區域ハ稀ニハ大叔伯父母及ヒ再從兄弟ニ及フ
 ナキニ非ス、何トナレバ人或ハ往々大叔伯父母若クハ再從兄弟
 ト親密ナル關係ヲ有スルコトアレハナリ、然レモ一箇人ノ一族ハ四
 方ニ離散シ遠系ナル親戚ノ關係ノ如キハ殆ント無効ナル今日ニ
 於テハ以上列記シタル親族以外ニ於テ遺言ナキ遺產ヲ要求スヘ
 キ道德上ノ權利アラサルナリ、今若シ遺產者ニ對シ第三ノ從兄弟
 ニ當ル者ニシテ外國ニ居住シ若クハ國內ナル遠隔ノ地ニ住スル

モノアリトセンニ其遺產ニ對スルヤ死者カ生前其財産ヲ獲得シ
 タル社會ノ各人ヨリモ道德上ノ權利少ナキモノナリ、何トナレハ
 其本人カ其資産ヲ興スヲ得タルハ其社會各員ノ勤勉協力ト彼等
 カ法律及秩序ヲ遵守シタルトノ故ニ歸セスンハアラサレハナリ、
 夫レ遺言ナキ遺產ヲ分配スルニ當リ遠系ノ血縁者ヲシテ之ニ與
 カラシムルトモ之カ爲メ何ノ利益ヲモ得ルコト能ハサルヘシ、却テ
 之カ爲メ往々嫌フヘキ爭論ヲ惹起シ遂ニ莫大ノ費用ヲ徒消シ以
 テ是非ヲ法庭ニ爭フニ至ルカ如キコトアリ、加之ナラス其結局如何
 ト云フニ即チ少數ノ僥倖者ヲシテ怠惰無用ナル生活ヲナサシム
 ル一ノ媒介トナルニ止マルノミ、
 故ニ遺產ニ對シテ遠系ノ親族カ有スル法律上ノ權利ヲハ全ク大
 叔伯父母及ヒ再從姪並ニ再從兄弟以內ニ限ルコト至當ナリト云

ハサルヘカラス、人若シ死後其財産ヲ以上列記シタル血縁外ノ者ニ分與セント欲セハ之カ爲メ生前豫メ贈與ノ手續ヲ爲シ置カサルヘカラサルナリ、

斯ク論レ來レハ論者或ハ云ハン、人死シテ後奚ソ現世界ノ事ニ付キ或ハ現世界ニ施スルモノニ付キ是非ヲ云フノ權利アランヤト、夫レ然リ世界ハ生者ニ施スルモノニシテ死者ニ施スルモノニアラサルヤ必セリ、例セハ人若シ其妻ニ對シテ一ノ願望アリトセンニ其人死シタル後其願望ハ何ノ効力ヲモ有セサルナリ、何トナレハ夫死シテ後其妻ハ亡夫ノ束縛ヲ受クル者ニアラサレハナリ、換言スレハ夫若シ生前其妻ニ向ヒ「我死シテ後ハ他人ニ嫁スヘカラス」ト命センニ、彼死シテ後其命令ハ法律上何ノ効力ヲモ有セサルモノナリ、又其兒女ニ對スルモ是ト同一ニシテ其權利甚ク制限ア

ルヲ見ルナリ、然レトモ世人往々私有財産ハ人ノ爲メニ存スルモノニ人ハ私有財産ノ爲メニ存スルモノニアラサルヲ忘却シ、且ツ或一人カ嘗テ所有セン財産ニ對スル意思ハ其人ノ死シタル後ト雖モ神聖犯ス可ラサルモノナリトスルノ傾向アリ、夫レ一箇人ヲシテ世界表面ノ或一部分ヲ占有センメ其生存中憚ル所ナク「是レ我有ナリ、我カ欲スル所ニ從テ之ヲ如何トモスルヲ得ヘシ、何人ト雖モ我カ許可ヲ得スレテ之ヨリ利益ヲ收ムルヲ得ス」ト云フヲ得センムルモ尙且ツ已ニ過分ニ其權利ヲ許シタルモノナリ、此權利ヲ許スハ萬人カ認メテ以テ便利ナリトスル所ナレハ素ヨリ不可ナルニ非スト雖モ、是ヨリモ一層過分ノ權利ヲ要求シ、世界表面ノ或部分ハ余カ死後ト雖モ永久ニ余カ支配ノ下ニアルヘキモノニシテ他人ノ之ニ干涉スルヲ許サス、是レ余カ嘗テ所有シ

タルモノナレハナリト云フニ至リテハ不替モ亦極マレリト云フ
 ヘシ、若シ夫レ私有財産權ヲ此ノ如ク過度ニ擴張スル時ハ恐ラク
 ハ私有財産制度ヲ顛覆セント企圖スル者ヲシテ好辭柄ヲ得セシ
 メ遂ニ其全制度ヲ危カラシムルニ至ラン、
 余ハ如何ナル場合ニ於テモ死者ヲシテ苟モ財産所有權ト稱スヘ
 キモノヲ有セシムルコトヲ許ス能ハス、此權利タルヤ只生者ノミ之
 ヲ有スヘクシテ死者ハ之ヲ有スルモノニ非ス、其妻、兒女、親戚及ヒ
 其社會コソ此權利ヲ有スヘキ者ナレ、夫レ何レノ處ニ於テモ人ハ
 絶對的ニ其財産ハ斯クナスヘシ、斯クナスヘカラスト云フヲ得ス、
 其妻モ亦其財産ニ對スル權利ヲ有スルモノニシテ是レ決シテ輕
 視スヘカラストナリ、佛國ニ於テハ死者ノ兒女等ハ一人ノ兒女ノ
 割前ニ等シキモノヲ除クノ外ハ其財産ノ全部ヲ要求スルコトヲ得

ヘシ、抑モ贈遺權ハ世界多數ノ邦國ニ於テ久シク認定セラレサリ
 シモノナリト雖モ近年ニ至リテ漸ク之ヲ許容スルコトナレリ、而
 シテ其之ヲ認定スル唯一ノ理由ハ之レヲ許スハ社會ノ公益ナリ
 ト云フニアリ、然レトモ此權利ハ制限セサルヘカラスト、
 是ニ由リテ之ヲ觀レハ相續權ハ或ル場合ニ於テハ之ヲ擴張シ、又
 他ノ場合ニ於テハ之ヲ縮小セサルヘカラスト、米國諸州ニ於ケル法
 律ハ子ハ親ノ財産ニ對シテ道德上ノ權利ヲ有スルコトヲ充分ニ承認
 セスト雖モ、此權利タルヤ親ハ其子ヲ生出シタルモノナルカ故ニ
 彼等ヲノ幸福ニシテ有益ナル生活ヲナシ得ヘキ地位ニ立タシメ
 サルヘカラストノ理由ニ基クモノナリ、然レモ子ハ特ニ遺言ナキ
 場合ニ於テハ必スシモ數百萬ノ財産ヲ相續スルノ權利アルニア
 ラス、只其幸福ニシテ有益且ツ成功ナル生活ヲナスニ足ルヘキ相

當ノ資産ヲ相續スルノ權利ヲ有スルノミ、而シテ其所謂相當ノ額ハ各人ノ階級及ヒ地位等ニ應シテ大ニ差等アリト云フヘシ、更ニ一步ヲ進メテ之ヲ論センニ遺產相續及ヒ贈遺ニヨリテ財產ヲ讓リ受ケタル者ハ特別ナル政府ノ保護ト補助トヲ要スルモノニシテ、若シ法律ト秩序ヲ維持スル政府ナクンハ死者ノ財產ヲ平和ニ讓受スルト到底望ム能ハサルヘキナリ、夫レ遺產相續ニヨリテ得タル金錢ハ其相續者ニ取リテハ即チ勞力ヲ要セスシテ得タル所得ニ外ナラサルカ故ニ之ニ課スルニ普通ノ所得稅額ヨリ重キ稅ヲ以テスルモ不當ナリト云フヲ得ス、此租稅タル最モ容易ニ徵收シ得ヘキモノニシテ、是レ則チ之ヲ賦課スル所以ナリトス、

遺產相續及ヒ贈遺ニ租稅ヲ課スル所以ノモノハ蓋シ以上説明シ

タル理由及ヒ其他ノ理由ヲ因ルナリ、且ツ遠系ノ者ノ相續シタル財產ハ近系即チ直接血統ノ者ノ相續シタル財產ヨリモ重キ稅率ヲ以テ課稅スルト至當ナリト云フヘシ、

メーリーランド州ノ法律ハ遠系ノ相續財產ニシテ其高五百弗ヲ超過スル時ハ二分半ノ稅率ヲ以テ之ニ課稅スルトセリ、千八百八十一年ノ租稅調查委員ノ起草シタルメーリーランド州ニ於ケル州及自治市租稅制度ノ綱領ト題スルモノニ於テ左ノ如ク之ヲ記述セリ、

「當州ニ於ケル不動産、動産、雜種財產、金錢、公私ノ證券ニシテ其所有者ノ死シタルカ爲メ其所有主ヲ更フヘキモノニシテ之ヲ取得シタルモノ、若クハ遺產者ノ父母、夫妻、或ハ兒供及ヒ其直接血統者ノ用ノ爲ニ委託シタルモノヲ除キ、一箇人又ハ或ル會社カ

受ケタル遺產ハ其手数料中ニ算入スヘキモノナリ、又州内ニ住セサル者ニシテ州市ノ公債若クハ會社ノ株券ヲ有スル者ヲ取扱フ管理人ニ對シテハ州内居住ノ管理人ニ對スルト同一ニ租稅ヲ賦課スルモノトス、千八百八十七年ニ於テ此種ノ租稅ヨリ生シタル金額ハ實ニ五萬八百五十四弗四十七仙ニシテ、遠系相續稅ヨリ生シタルモノハ四萬五千五百九十七弗十四仙ニ過キサリキ、余ハ遠系相續財產高ノ多少ニ從テ區別ヲ立テサルヘカラスト考フルナリ、メーリーランド州ノ相續稅ハ小財產ニ對シテハ充分ナリト雖モ、二萬弗以上ノ財產ニ對シテハニューヨーク州及ヒペンシルヴェニア州ノ稅率ト雖モ未タ過重ナリト云フヲ得ス、故ニ五萬弗以上ノ財產ニ對シテハ其稅率ヲシテ一割マテニ昇ラシムルモ不當ニアラサルヘシ、而シテ此租稅ハ凡テノ遠系相續及ヒ贈遺

ニ課スヘキモノナリトス、然レトモ已ニ説明シタル如ク遺言ナキ財產ニ對スル遠系親族ノ權利ハ全然之ヲ廢止セサルヘカラス、此場合ニ於テ其遺產ハ其州ノ沒收スヘキモノトナスヘキナリ、直系遺產相續稅ハ所得稅ニ附隨スル正當ナル租稅トシテ一般ニ認識スル所ナリ、故ニ其額偏重偏輕ナラス能ク中庸ヲ得タルトキハ是レ實ニ公正ナル租稅ニシテ當ニ公平ニ之ヲ査定シ得ヘク、又困難ナク費用ヲ要セスレテ之ヲ徵收シ得ヘキナリ、夫レ所得稅法ニヨレハ其額六百弗ニ達セサル所得ハ之ヲ免稅スルノ制規ナルカ如ク直系遺產相續稅ニ於テモ亦之ト同シク五分利附ニテ六百弗ヲ生スヘキ金額即チ一萬二千弗以下ハ之ヲ免除スルヲ至當ナリト云ハサルヘカラス、故ニ余ハメーリーランド州立法部ニ提出シタル報告書中ニ於テ一萬二千弗ニ超過スル悉皆

ノ直系遺產相續ハ一定ノ稅率ニヨリテ一分稅ヲ課スヘキヲ勸告シタリ、

余ハ敢テ今日ニ於テ之ヲ贊說セント欲スルモノニ非スト雖モ此說ハジエツフアーンソン(Jefferson)ノ民主政治ノ主義又ハ經濟及社會問題ニ於ケル近世大家ノ教示スル所ト符合セリ、彼等ノ主張スル所ハ其租稅ノ等級ヲ立ルニアリ、例セハ其稅率ヲシテ十萬弗ヨリ二十萬弗迄ノ財產ニ於テハ二分、二十萬弗ヨリ四十萬弗迄ハ三分、四十萬弗ヨリ八十萬弗迄四分、八十萬弗ヨリ百六十萬弗迄五分ト次第ニ増加シ、其金高五千萬弗ニ至リ其稅率一割ニ達シテ止ムヘキモノトス、抑モ重キ稅率ハ何レノ場合ニ於テモ輕キ稅率ニヨリテ課稅セラル、定額以上ノ超過額ニ於テノミ課稅サルヘカラス、故ニ若シ其租稅ニシテ十萬弗ヨリ二十萬弗迄ハ二分、二十萬弗

ヨリ四十萬弗迄ハ三分ナリトセハ三分ハ二十萬弗ノミニ課稅サルヘカラス、之ト同シク十萬弗ニハ二分ヲ課シ、而シテ八萬八千弗ニハ一分ヲ課セサルヘカラス、

此租稅ハ一千弗ニ對シテ十弗ノ割合ニ過キサルヲ以テ何人ニモ困難ヲ感セシメサルヘシ、而シテ二萬弗ノ財產ニ對シテハ僅カニ八十弗ノ割合ニ過キサルモノニシテ即チ一萬二千弗ヲ超過シタル八千弗ニノミ課稅スルモノトス、是レ實ニ租稅ノ各典則ニ適合スルモノナリ、

ジエツフアーンソン及ヒ其他我共和政治ノ創立者等カ勉メタル事業ノ一ハ世襲ノ高地位及ヒ特權即チ門閥的弊風ヲ撤去スルニアリキ、蓋シ其目的トシタル處ハ人民ヲシテ皆自己ノ勞作ニ依頼シテ其生活ノ運命ヲ定ムルノ風ヲ興サシメ、且ツ各人ヲシテ悉ク同

等ノ地位ニ立テ人生ノ競争社會ニ入ラシムルニアリキ、
 又今日ノ趨勢ニ於テ最モ恐ルヘキハ富財次第ニ少數者ノ手ニ兼
 併セラル、事是ナリトハ世人ノ論議シタル所ナリ、以上説明シタ
 ル課稅法ハ此富財兼併ノ弊風ヲ矯正スルニ多少與テ力アルヘク、
 又我國制度ノ精神ト符合スルモノナリ、
 又保守論者ニシテ一種ノ矯激ナル法案ヲ設ケントスル者アリ、近
 來イリノイ州代言人組合ノ委員ハ一人ノ子供ノ相續シ得ヘキ額
 ヲ五十萬弗以内トシ、其他何人ニテモ一財産ヨリ相續シ得ヘキ額
 ヲ十萬弗以内トシ以テ嚴重ニ其額ヲ制限スヘキ建議ニ贊成ノ意
 ヲ表シタリ、而シテ其報告中ニ曰ク、抑モ世界ノ歴史ニ於テ金錢ノ
 勢力強大ナルコト蓋シ今日ノ如ク甚シキハナカルヘク、又其勢力
 ヲ用ヒテ以テ百般ノ事ヲ左右スルコト今日ノ如ク顯著ナルハアラ

サルヘシ、而シテ其勢力ハ愈々増進シテ底止スル處ヲ知ラサルナ
 リ、之ヲ略言スレハ金力ハ武力ヲ凌駕スルコト已ニ遠シト云フヘシ、
 試ミニ思ヘ今ヤ一個人カ國民ノ財産ノ數百萬弗ヲ專有シ死後遺
 言ニ因リテ之ヲ他ニ讓リ以テ他ヲシテ其自在力ニ依リテ欲望ヲ
 擅ニセシムルノ結果ハ社會ノ諸階級間ニ甚シキ懸隔ヲ生セシメ
 遂ニ社會不穩ノ源トナラントス、云々ト、然レトモ余ハ是ニ付テ敢
 テ議論ヲ試ミント欲スルモノニ非ス、唯其當否ハ措テ問ハス右ノ
 如キ弊風ハ是レ我共和政治ノ創業者等カ米國ニ於テ大ニ防遏セ
 ント試ミタルモノニ外ナラスト云フノミ、
 遺產相續稅ヲ課スルニ當リテハ之ト同時ニ精確ナル所得稅表ヲ
 作り之ヲ調査セサルヘカラス、而シテ之ヲ處理スルニ於テ最モ適
 當ナル方法ハ不正ナル報告ヲ作りタル死者ノ遺產ニ對シ最後ニ

所得稅ヲ納メシ時詐欺ニヨリテ免レタル不納稅額ノ五倍ニ相當
スルノ罰金ヲ課スル法律是レナリ、

第九章 營業稅

抑モ營業ニ關シテハ其運動ヲ及フ可キ限り自由ニ放任スルヲ得
策ナリト云フヘシ、而シテ各州間ニ劇甚ナル競爭アルノ點ヨリ考フ
ルモ營業稅ハ及フ可キ限り輕減セサル可ラス、又我國ノ貿易及ヒ
製造業ニ對シテハ殊ニ注意シ其發達ヲ計ラサル可ラス、何トナレハ
競爭諸港ハ概シテ租稅ヲ免除スルカ故ニ若シ我國ニシテ重稅ヲ課ス
ル時ハ商業漸次ニ衰頽スルニ至ルヘケレハナリ、又外國貿易ニ從
事スル登録濟船舶ニ對シテハ悉ク其價格ニ對シテ課稅ヲ免除シ只
其利得ノミニ課稅スルヲ得策ナラン、例セハロイド、アイランド州
及ヒニューヨーク州ニ於ケルカ如シ、而シテ千八百八十七年ニ於ケ
ルコンチチカット州租稅調査委員モ亦其報告書ニ於テ此方法ヲ實
行センコトヲ主張シタリ、沿岸貿易ニ從事スル船舶ハ外國トノ競爭

ナキカ故ニ政府ノ保護ヲ要スルコト少ナレト雖モ政府ハ之ニ對シテ重稅ヲ課セサル様注意スヘキナリ、此種ノ船舶ニ對シテモ亦タ其利得ニ課稅スルノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘシ、茲ニ注意スヘキ事アリ、ニューヨーク市及ヒ其他ニ於テハ法律上ニ於テハ營業ニ課稅スルノ規定ナリト雖モ實際ハ之ニ課稅セサルコト是レナリ、千八百八十八年一月十日附ヲ以テ市長エー、エス、ヒユウヰット氏カニニューヨーク市參事會ニ提出シタル最近ノ公書ハ租稅問題ヲ論シタルモノニシテ其論中ノ三點ハ吾人ニ取リテ頗ル肝要ナリトス、其第一點ハ我カ租稅制度ノ不公正ナルコトニ付テ反覆辯論シタルモノナリ、曰ク「寡婦、孤兒及ヒ高等裁判所ノ後見ヲ受クル者ノ財產ハ法律ノ要求スル所ニ從ヒ充分ナル稅額ヲ納ムルニ關セス」(大抵ノ場合ニ於テハ之ヲ納ムルコト至難ナリト雖モ)豐富ナル資產家

ノ如キハ全ク課稅ヲ免ル、カ、若シクハ巧ニ口實ヲ設ケテ不允分ナル過輕ノ租稅ヲ納ムルナリ、是レ實ニ厭惡スヘキ弊風ニアラスヤ、云々、其第二點ハ即チニューヨーク市内ノ營業ヲ保護センカ爲メニ動產稅ヲ免除スルコトヲ主張スルモノニシテ、曰ク、今ヤ吾人ハ西大陸ノ中心ニ立テリ、然レトモ數年ノ後ニハ世界ノ商業ニ對シテ手形交換所タラサルヘカラスト、是レ實ニ輕稅ヲ利用シテ諸商業ヲニューヨーク市内ニ吸集セントスルノ策ナルコトハメーリーランド州及ヒ其他諸州ノ實業家等ノ已ニ悟リタル所ナルヘシ、其第三點ニ於テハ記シテ曰ク、法律ハ凡テ以上ノ如キ規定ヲニューヨークニ實施スヘキコトヲ命スルニモ關セス實際ニ於テハ之ヲ棄却セリト、又其不公平ナルコトヲ充分ニ知リツ、行ヒタル動產ノ不公平ナル査定ニ付キ不平ヲ鳴ラス者ヲ論シテ氏ハ左ノ如ク

云へリ、

「普通ノ場合ニ於テハ其不公平ナリトノ事實ヲ當然ナリトナシ、不公平ナリトテ訴ヘラレタル委員ヲシテ其職ヲ退カシムルヲ予カ職分ナリシヤモ知ルヘカラスト雖モ現行ノ法律ハ其規定通りニ決シテ實行セラレシ事ナキハ掩フ可ラサルノ事實ナリ、此問題ヲ討究シタル人々ハ其法律タル當市ニ於テハ其法文ノ如クニ到底行ハレザリシモノナリトノ説ニ付テ敢テ異論ナカ
ルヘレシ云々、

ホルチモール市ノ商人ハ小賣營業ニ於テモ尙且ツ隣州ト競争セサルヘカラスト、而シテ不動産ノ價值ハ商業ノ状態ニ由リテ定マルモノニシテ、商業繁榮セサレハ勞力社會モ亦其職業ヲ得ルヲ能ハサルヘシ、

モントリール市ニ於テ課スル營業稅ハ借地料ニ對スル一種ノ割合稅ニシテ甚タ満足ナル結果ヲ顯ハセリ、而シテ其稅率ハ七分半ノ割合ニシテ商品ハ之ヲ免稅シ、無形動産モ亦同シク之ヲ免除セリ、此稅法タル一般ノ満足スル處ナルカ如シ、又不動産所有者モ此稅法ニ對シテ不平ヲ鳴ラス、何トナレハ此稅法タル其市内ニ數多ノ營業ヲ吸集スルニ與テ力アルモノニシテ、之カ爲メニ却テ彼等カ財産ノ價格ヲ増加セシムルニ至ルヘケレハナリ、各商店事務所、製造所及ヒ其他ノ營業場ノ毎年ノ借地料高ニ對シテ一割ノ稅ヲ課スルコト得策ナルヘシ、而シテ商品、器械、及ヒ其營業場ニ用ユル器具等ニハ之ヲ免除スルコト、スヘキナリ、此租稅ハ普通ノ法律ニヨリテ賦課セラル、モノナリト雖モ便宜ニ各地方ニ委任シテ之ヲ使用セシムルヲ可トスルナリ、然レモ若シ州ニ

於テ之ヲ要スルヲアル時ハ地方自治區ヲシテ其收入ヲ州ノ財庫ニ納メシムルヲ得ヘシ、

第十章 蒸氣鐵道及其他ノ會社ニ課スル租稅 鐵道

正當ナル租稅制度ニ於テハ農業製造業及ヒ商業ニ關スル諸會社ニ課スル租稅ト自然獨占事業ニ課スル租稅トノ區別ヲ立テサルヘカラス、蓋シ後者ノ營業ハ其性質準公共的ナレハナリ、去レ此普通ノ商業會社ハ一箇人若クハ組合營業ト區別シテ之ニ課稅スヘキノ理由ナキナリ、兩者共ニ其營業ノ爲メニ使用スル場所ノ借料高ニ應シテ課稅スヘキナリ、抑モ準公共的ノ性質ヲ有スル會社ニ對シテハウ井スコンシシメント、リリランド、ヴェルモント及ヒ其他諸州ニ於テ蒸氣鐵道ニ課稅スルカ如ク其總收入ニ比例シテ之ニ課稅スルヲ便利ナリトス、如何ナル會社ト雖モ其純收入ニ課稅セントスルハ決シテ得策ニ非ス、

若シ斯クノ如クスルモハ其會社ハ詐欺ノ手段ヲ以テ實際ノ收入ヲ隱蔽スルニ至ルヘキナリ、或ル州ニ於テハ鐵道會社ノ配當金ニシテ或割合ニ超過スル時ハ其派車賃ヲ低減スヘキトテ免許狀ノ條文ニヨリテ命令セリト雖モ余ハ其配當金ニシテ此割合ニ達シタルノ記録ヲ見ルカ如キ場合ナキヲ信スルナリ、若シ斯クノ如キ場合アラシカ、其會社ハ株金ヲ増加シ、社債證券ヲ作爲シ、他ノ會社ト聯結シ、又役員ノ給料ヲ増加シ、以テ其帳簿上ノ純收入ヲ減殺スルトテ計ルニ至ルヘキナリ、又時トシテハ通常ノ會社及ヒ其他ノ會社ノ役員ニシテ其會社ノ全權ヲ掌握シ殆ント其全純益ヲ自家相互ノ間ニ分配スルカ如キトナキニ非ス、或都府ノ收稅吏等テ余ニ語リタル事アリ、曰ク或會社ノ社長書記及ヒ出納掛ハ該會社ノ全純益ヲ給料トシテ悉ク彼等自身ノ間ニ分配シタル事アルヲ見タ

リト、而シテ其之ヲ分配スルノ方法如何ト云フニ、純益額四萬弗テ爾時ハ社長ハ其内給料トシテ二萬弗ヲ受ケ、書記及ヒ出納掛ハ各一萬弗ヲ受ルトセリ、然ルニ總歲入ニ課スル租稅ニ至テハ單純且ツ容易ニシテ其結果財産ノ價格ニ課スル租稅ト均シキモノナリ、余モ亦々嘗テ前述ノ如キ場合ヲ目撃シタルトアリ、或市内鐵道アリ、其會社ニ投入シタル全資本ト同額ノ社債ヲ起セリ、故ニ其株金ハ實際ニ投入シタル資本額ヲ示ス者ニ非ス、而シテ其資本ハ悉ク之ヲ投入シ其社債券ニ對シテハ利子ヲ支拂ヘリ、然ルニ尙ホ其株金ニ對シテハ配當スヘキ剩餘金アラサルノ故ヲ以テ該會社ノ役員等ハ毫モ純益ナント主張スルナリ、狡智モ亦甚シト云フヘシ、實際其株金ト社債券トハ共ニ是レ其會社ノ投入資本ナルコトヲ記臆セサルヘカラサルナリ、抑モ總收入ニ課スル割合稅ハ充分ニ

其稅率ヲ高クシ以テ正當ニ投入シタル悉皆ノ財產ニ賦課スヘシト雖モ其株券及ヒ社債券ハ之ヲ免除セサルヘカラス、又不動産ヲ課稅スルニハ地方自治體ノ吏員最モ適當ナルカ如ク、蒸氣鐵道、電信、電話、臥床附屬運送會社等ノ如キ諸會社ニ對シ課稅スルニハ州ノ吏員之ヲ適當スルコト最モ得策ナルヘシ、故ニ是等諸會社ニ對スル課稅事務ハ悉ク之ヲ州ニ移シ其租稅ハ專ラ州用ニ供セシメサル可ラス、若シ斯クノ如クセハ大ニ行政上ノ繁雜ヲ省キ夫ノ厭フヘキ訴訟、又ハ腐敗ノ沙汰ヲ減少スルヤ必セリ、

ウ井スコネン州ニ於ケル鐵道稅法ハ已ニ前章ニ於テ説明シタル所ナリ、而シテメーリーランド州租稅調查委員ノ建言シタル趣旨ハ即チ鐵道ヲシテ通常ノ州稅郡稅ノ外ニ左ノ如キ特別免許稅ヲ納メシムヘント云フニ在リ、其報告書中ニ曰ク、

「吾人カ指示スル免許稅率ハ左ノ如シ、一哩毎ニ總收入ノ最初ノ一千弗若シ一千弗ニ達セサルトキハ其總收入額ニハ一分稅ヲ課シ、一哩ノ收入一千弗以上ノ最初ノ一千弗若シクハ其端金ニハ二分稅ヲ課シ、一哩二千弗以上ノ最初ノ一千弗若シクハ其端金ニハ三分稅ヲ課シ、一哩三千弗以上ノ最初ノ五百弗若シクハ其端金ニハ四分稅ヲ課シ、而シテ一哩ノ收入三千五百弗以上ノ超過額ニ對シ五分稅ヲ課スヘシ、云々、」

而シテ其報告書中更ニ論シテ曰ク、

「每哩ニ於ケル收入大ナルニ從ヒ其稅率ヲ增進スルノ理由ハ蓋シ每哩ノ總收入増加スルト同時ニ鐵道ノ純益増加スルコト甚ク速カナルカ故ナリ、換言スレハ鐵道營業ノ増加スルニ從ヒ其純益ハ其營業費ヨリモ一層迅速ニ増加スルモノナリ、何トナレ

ハ鐵道營業ニ於ケル最主要ノ費用ハ其營業ノ大小ニ拘ハラズ必スヤ支出セサルヘカラサルモノナレハナリ、然リ而シテ斯クノ如キ費用ハ其營業ノ盛大ナルニ從ヒ比較的ニ減少スルモノナリ、

吾人カ提議セル稅率ハ、メーリーランド州ニ於ケル諸鐵道會社ノ總收入ト其純益トヲ比較シテ立案シタルモノナリ、故ニ吾人ハ確信ス此稅率タルヤ諸鐵道會社ヲシテ國庫ニ相當ナル租稅ヲ納メシムルモノニシテ、決シテ不當ノ重稅ヲ負擔セシムルモノニ非スト、云々、

余ハグエルモント、ウ井スコニン及ヒミンツビー等ノ諸州ノ政府カ採用スル總收入稅法コソ實ニ最モ適當ナルモノナラント信ス、而シテ若シ總收入ニ對スル前述ノ割合ニテハ鐵道ヲシテ公

平正當ナル租稅ヲ納メシムルニ足ラストセンカ、其稅率ヲ增加スルハ甚タ容易ナルヲナリトス、

グエルモント州及ヒミンツビー州ニ於ケル鐵道稅ハ、メーリーランド州租稅調査委員報告書ニ於テ左ノ如ク説明セラレタリ、曰ク、

「千八百八十二年ヨリ實施シタルグエルモント州ノ現行稅法ハ漸次ニ人民ノ贊同スル處トナレリ、其鐵道タル素ヨリ我メーリーランド州諸鐵道ノ如ク營業ノ盛大ト多額ナル利益トヲ見ルノ機會ヲ有セスト、雖モ其稅率ハ却テ吾人カ提議シタルモノヨリモ稍重シトス、即チ一哩毎ニ其最初ノ收入二千弗ニ對シ二分、第三ノ一千弗ニ對シ三分、一哩ノ收入三千弗以上ノ最初ノ一千弗ニ對シ四分、而シテ一哩四千弗以上ノ超過額ニ課スルニ五分

稅ヲ以テセリ、

ウエルモント州ニ於テハ諸會社ノ特權稅ヨリ生スル歲入ハ頗ル巨額ニシテ多年ノ間州政府ノ全經費ヲ支辨スルニ足りタルノミナラス、現時ニ於テモ尙ホ且ツ然リト云フ、故ニ該州ニ於テハ財產ニ州稅ヲ課セス、此財源ヨリ生スル歲入ハ悉ク舉テ之ヲ郡及ヒ其他地方自治體ノ經費ニ供スルコトセリ、

ミシシッピ州ニ於テハ州政府ハ悉皆ノ鐵道ニ免許權稅ヲ賦課セリ、而シテ其稅法ハ先ツ各鐵道ニ賦課スヘキ每哩ノ稅額ヲ制定シテ各差等アリ、即チ「モビル、アンド、ノースウエースタール」鐵道會社ノ布設セル鐵道ニ對スル一哩ノ稅額二十五弗ヨリ次第ニ上リテ「モビル、オハヨール」鐵道會社及其他ノ會社ノ鐵道ニ對スル一哩ノ稅額百二十五弗ニ至ルナリ、又千八百八十四年ノ條例

ニ由リテ實施シタル免許稅ハ千八百八十六年ノ條例ニ由リテ更ニ二割五分ヲ增加シタリ、此租稅法タル悉皆ノ州稅郡稅ニ代用スルモノニシテ其收入ノ三分ノ二ハ各郡ヲ通過スル鐵道線路ノ哩數ニ比例シテ各郡ニ分配スルノ規定ナリ、然レトモ府及ヒ自治市ハ其經費ニ供スルカ爲メ凡テ他ノ財產ニ課稅スルト同一ノ稅率ヲ以テ其區域内ニ於ケル鐵道財產ニモ課稅スルコトヲ得ルナリ、

ミシシッピ州ノ州務官チョールヂ、エム、ゴウヱアン(George M. Govan)氏ハ本委員會ヨリノ質問ニ答ヘテ左ノ如ク云ヘリ、曰ク「鐵道稅ハ最モ能ク行ハレ易キ稅法ニシテ要スルニ州歲入ノ好財源ナリ、勿論鐵道會社ハ一應之ニ反對スト雖モ速カニ納稅スルヲ常トス、云々」ト、

此租稅タルヤ其稅率變更常ナキモノニシテ州議會ハ其見込ニ由リテ各鐵道ノ每一哩ニ對スル稅率ヲ制定スルナリ、然レモ夫ノ總收入ニ課スル割合稅ノ如キ一層不變ナル稅法ヲ設ルノ得策ナルヤ明カナリ、若シ一定ノ割合稅トスルキハ鐵道營業ノ消長ニ由リテ變更ヲ見ルニ止マルヘシ、又其他ノ會社ニ對スル租稅ニ就テハメーリーランド州租稅調査委員ノ提議ノタル所左ノ如シ、

會社

會社ニ課スル稅法ニ付キ討究ノ末吾人ハ下ノ如キ結論ニ歸着セリ、曰ク我現行憲法ノ下ニ在リテ最モ實際ニ適合シ又四圍ノ事情ヨリ推シテ之ヲ考フルモ最モ實際ニ適シタル稅法ナリト認ムルモノハ即チペンシルヴエニヤ州ニ行ハル、稅法ナリト

ス、而シテ是レ其財政報告書中ニ於テ會社ノ株金稅ト稱スルモノニシテ、州ノ許可ヲ得タル特許狀ニ依リテ特權ヲ有スル諸會社ノ總收入稅ト共ニ賦課スルモノナリ、

ペンシルヴエニヤ州ニ於ケル所謂株金稅ハ其實資本金ニ課スルニ非スレテ純益ニ課スルモノナリ、而シテ之ヲ徵集スルヤ及フ可キ限リ其困難ヲ避クルノ方法ヲ以テセリ、蓋シ其困難トハ即チ純益ニ課稅スルノ困難ニシテ是レ通例此稅法ノ脱レ易キヨリ起ルモノナリ、

該州カ採用ノ好結果ヲ得タル法案ハ略ホ左ニ述フルカ如シ、曰ク若シ一會社カ或一年間ニ分配シ若シクハ公示シタル配當金額ニシテ其資本株ノ平價 (Par value) ニ對シ六分若シクハ六分以上ニ上ルトキハ其稅率ハ其已ニ分配シ若シクハ公示シタル配

當金ノ各一分ニ對シ半厘トナスヘシ之ヲ換言スレハ會社ハ配當金ノ二十分一ニ均シキ租稅即チ配當金ノ五分ニ均シキ租稅ヲ納ムルトトナルヘキナリ若シ配當金ヲ分配セス若シクハ公示セザリントキ又ハ配當金ニシテ資本株ノ平價ニ對シ六分ニ達セザルトキハ法律ニ依リテ評價セル資本株ノ各一弗ニ對シ三厘ノ稅率ヲ以テ之ニ課稅ス而シテ若シ會社ノ收得シタル純益ニシテ其株主ノ間ニ分配セス準備基金中ニ加入シタル金額ハ株主ノ間ニ分配シタル配當金ト同一ニ見做スヘキモノニシテ其稅率ヲ定ムルニ當リテハ之ヲモ其計算中ニ入レサルヘカラス、

吾人ハ本州ニ於テモ亦同一ノ稅法ヲ實施センコトヲ勸告ス但シ鐵道會社及ヒ銀行ニ至リテハ此稅法ヲ以テ課稅スヘキ限り

ニ非ス何トナレハ吾人ハ鐵道ニ對シテハ已ニ充分ナル稅法ヲ設ケタルノミナラス右ノ如キ租稅ヲ以テ之ヲ國立銀行ニ課セントスルモ實際行ハレサルカ故ナリ、

各遞信事業電信運送特別上等瀛車及ヒ臥床附瀛車等ノ諸會社ニ對シペンシルヴェエニヤ州ニ於テハ其毎年ノ總收入ニ對スル一分ノ十分ノ八ノ割合ヲ以テ課稅ス而シテ此租稅ハ以上ニ記シタル株金稅ト共ニ附加稅トシテ課スルモノナリ、

吾人ハ左ノ如ク勸告ス總收入稅ヲ課スルニ當リテハ先ツ電信會社ニハ二分ノ稅率ヲ以テシ電話運送名權保險會社貯金會社「トラスト」組合特別上等瀛車及臥床附瀛車會社等ニハ三分稅ヲ以テシ州内ノ諸保險會社ニ對シテハ一分稅ヲ課スヘシ又州外ノ諸保險會社ノ總收入ニ對シテハ現今ノ稅率ヲ存置シ一分半

稅ヲ課スルコト、スヘシ、是等ノ租稅ハ素ヨリ會社ノ配當金ニ由リテ計算シタル租稅ニ附加スルモノナリ、
 以上列記シタル諸會社ニ對シテ特別總收入稅ヲ賦課スル理由ハ甚々明白ナリ、蓋シ右ノ諸會社ハ只州ヨリ許可セラレタル會社ノ特權、若クハ其州ニ於テ斯ノ如キ特權ヲ實行スルノ許可ヲ有スルカ故ニ大ナル利益ヲ收得シ得ルモノナレハナリ、夫レ然リ是等ノ會社ハ州ノ人民ヨリ巨額ノ金錢ヲ收得スルモノニシテ保險會社ヲ除クノ外ハ大抵絕對的獨占事業ニ屬シ何等ノ競爭ヲモ受ケサルナリ、而シテ又敢テ他ヨリ制限若クハ告訴ヲ受クルノ恐レナク隨意ニ其質銀ヲ定メ以テ隨意ニ其利益ヲ舉クルナリ、特ニ或會社ノ場合ノ如キニ於テハ比較的ニ些少ノ資本ヲ以テ其營業ヲ爲セルモノトス、抑モ運送會社ノ如キハ或ル範圍

内ニ於テ鐵道ト競爭ヲナスト云フヲ得ヘシト雖モ是レ未タ真正ノ競爭ト稱スヘキモノニ非ス、何トナレハ兩者ニ於ケル營業ノ性質上互ニ相深ク侵害スルコトヲ得サルモノナレハナリ、若シ如キ侵害アリトスレハ願フニ是レ鐵道會社ノ營業ニ對シテ運送會社ノ之ヲ侵害シタルニ外ナラサルヘシ、

ペンシルヴエニヤ州ニ於テ採用スル純收入并ニ總收入ニ課スル稅法ハ其目的租稅ノ調理ヲ計ルニ在リト雖モ、以上ニ論シタル理由ヲ以テ見レハ總收入ノミニ課スル稅法ノ如ク能ク實際ニ行ハレサルヘシ、
 余ハ余ノ同僚カ主張スル複雜ナル稅法ヲ採用センヨリハ寧ロ所謂總收入稅ノ稅率ヲハ彼等ノ勸告セルヨリモ増進シ(若シ必要ト認ムルトキハ)以テ配當金ニ課スル租稅ヲ廢止センコトヲ欲スルナ

リ、又諸保險會社ニ課稅スルニ州ノ内外ニヨリテ其稅率ヲ異ニスルノ法ハ諸州ノ實施スルモノナリト雖モ是レ余ノ取ラサル所ナリ、且ツ保險會社ハ頗ル有益ナル會社ナルノミナラス其同業者間ニモ競争ヲ生シ易キモノナルカ故ニ之ニ對シ不當ナル重擔ヲ課スルハ得策ニアラサルヤ明カナリ、或ハ往々之ニ重稅ヲ課セントスルカ如キナキニレモアラスト雖モ是レ決シ懲慝スヘキモノニ非ス、蓋シ諸保險會社ニ對シテ重稅ヲ課センヨリハ寧ロ其會社ヲシテ一層嚴重ナル營業法ニ遵ハレメ、以テ彼等カ占有スル特權ノ報酬トシテ彼等ノ契約履行ヲ誤ルナカラシムヘキ充分ナル保證ヲナサシムルノ得策タルニ若カス、素ヨリ是等ノ會社ト雖モ相當ノ租稅ヲ負擔スヘキハ言ヲ要セス、而シテ是等ノ會社ニ對シテハ他ノ諸會社ト異ニシテ配當金若クハ純收入ノミニ課稅ス

ヘキ許多ノ理由アルナリ、

法人トナリタル銀行ニ賦課スルメーリーランド州ノ稅法ハ實施ノ經過甚々可ナリ、且ツ此租稅ハ州政府ノ吏員即チ州稅委員ノ賦課スルモノナリ、其課稅ノ方法ヲ述ヘンニ先ツ悉皆ノ株券ノ實價ヲ計算シ、而シテ其實價ヨリ銀行所有不動産悉皆ノ査定價格ヲ引去リ其殘額ヲハ株券ノ數ヲ以テ除シ、以テ得タル株券ノ價格ハ即チ課稅スヘキ價格ナリトス、銀行ハ其株主ノ爲メニ州稅委員ニ納稅シ、而シテ更ニ株主ヲシテ之ヲ支拂ハシムルナリ、又銀行ハ往々地方政府ニ納稅シ、其稅額ヲ配當金中ヨリ引去ルアリ、メーリーランド州ノ稅法ハ悉皆ノ會社ノ株金及ヒ社債券ニ課稅スルモノニシテ、更ニ會社ヲシテ株主及ヒ社債券所有者ニ此稅額ヲ支拂ハシムルトセリ、此稅法ハ何レノ處ニモ採用スヘキ上乘ニシテ經

濟的ナル稅法ナリト云フヘシ、而シテメーリーランド州租稅委員
ハ株金及ヒ社債券等ニ課稅スルメーリーランド稅法ニ付キ左ノ
如ク云ヘリ、

「動産中ノ最モ價格アル種類ニ當スヘキモノハメーリーランド
諸會社ノ資本株及ヒ右諸會社ノ社債券若シクハ州ノ公債券ナ
リトス、是等ノ動産タル州稅ニ關スル限リハ之ヲ發見評價シ且
ツ之ニ課稅スルニ於テ毫モ困難ヲ見サルナリ、何トナレハ此稅
法ハ會社ヲシテ株主ノ所有スル株券ニ對シ又社債券所有者ノ
所有スル社債券ニ對シテ納稅セシムルモノナレハナリ、然レモ
州内ノ會社ノ社債券ニ對シテ地方稅ヲ徵集スルニ當リテハ大ニ
困難ヲ來シタルコトアリ、何トナレハ右ノ如キ簡便ナル稅法ハ會
社ノ社債券ニ課スル地方稅ノ場合ニ於テ存在セサリシヲ以テ

ナリ、故ニ吾人ハ本委員會ノ提起セル修正案中ノ一箇條ニ於テ
其缺ヲ補ハシコトヲ建議セリ、」

未タ法人トナラサル銀行ニ課稅スルニ當リテハ何レノ處ニ於テ
モ困難ヲ感シタリ、又或州ニ於テハ州立及ヒ國立銀行ノ區別ニ付
テ爭論大ニ起リタルコトアリ、特ニオハヨー州ニ於テ著シトス、未
タ法人トナラサル銀行ハ僅少ノ株金ヲ公示スルカ或ハ全ク之ヲ
公示セサルコトアリ、而シテ私立銀行營業者即チ所謂未タ法人ト
ナラサルモノハ既ニ詳述シタル如ク巧ニ計策ヲ設ケテ動産稅ヲ
避クルナリ、是レ甚タ不正ノ事ト云ハサルヲ得ス、若シ夫レ銀行營
業者ニ對シ一様ニ課稅スヘキ他ノ妙案ナキトキハ悉ク銀行營業
者ヲシテ純然タル法人ノ會社組織ヲシムルコト至當ナリト云フ
ヘシ、願フニ熟練ナル銀行家ハ或ハ私立銀行營業者ヲシテ其資本

ノ全額ヲ公示セシメ其額ニ對シテ法人タル會社ノ社債券ト同シク之ニ課稅スルヲ得セシムルノ方法ヲ提出スルヲアラン、然レモ國立銀行即チ最モ善良ニシテ安全ナル銀行ヲ獎勵セサルハ公共政策ノ本旨ニ非サルナリ、抑モ莫大ノ收益アル營業ヲナス銀行ニ對シテハ其納稅力ニ比例シテ相當ノ租稅ヲ負擔セシメンカ爲メベシルヴェニヤ州ニ於ケルカ如ク僅少ノ所得稅即チ配當金ニ課スル租稅ヲ加フルモ可ナリ、然レトモ銀行事業ニ對シ不當ノ重稅ヲ課スルハ是レ得策ニアラサルノミナラス國家ノ經濟上甚タ有害ナリトス、故ニ本章ニ於テ討究セル事柄ト共ニ已ニ前章ニ於テ説明シタル自然獨占事業ニ對スル正當ナル處分法ヲ記應セサルヘカラス、

第十一章 諸種ノ動產稅

家具稅

此稅法ヲ實施スルニ當リテハ一個人ノ家ニ入りテ道具、皿鉢、美術品及ヒ其他ノ什器ノ價格ヲ審査シ、若シクハ其人ニ向ヒ其所有物品表ヲ作ランコトヲ請求スルノ煩ヲナサンヨリハ寧ロ其毎年ノ家賃價格ヲ以テ其租稅ノ基礎トナスヘシ、其家屋ノ借家タルト否トノ如キハ關スル所ニアラス、蓋シ一ノ住家ハ必ス毎年相當ノ家賃價格ヲ有スルモノニシテ是レ容易ニ査定シ得ヘキナリ、而シテ此額ニ二ヲ乘シタルモノヲ以テ右租稅ノ基礎トシ不動產ニ課スル稅率ニ由リテ地方稅ヲ課スヘシ、是レ一個人ノ家具ノ價格ニ課スル租稅ニ均シキモノト看做スヘキナリ、然レトモ人若シ己カ家ニ美術品、書籍其他貴重ナル物品等ノ如キ凡テ所得ヲ生セサル物

品ヲ蒐集スルトセンカ、前述ノ税法ノ爲メニ之ニ課税セラレ、ノ
 悉ナカラシムルヲ可トス、蓋シ美術ノ發揚及ヒ家屋ノ修飾ノ如キ
 ハ宜シク獎勵スヘキコトナレハナリ、合衆國ニ於テ最モ美麗ナル
 繪畫ヲ蒐集シタル人ハボルチモールノウォルタース(Walters)氏ナ
 ラン、今日氏ノ如キ人ニ對シ其所有ニ係ル美術館ノ總價格ニ課税
 セントノ建議ヲ起スモノアリトセンカ、其建議ハ必ス萬人ノ排斥
 スル所トナリテ消滅スヘシ、何トナレハウォルタース氏ノ如キハ
 其美術館ヲ設立シ以テ自ラ社會ノ恩惠者トナリタルモノナレハ
 ナリ、氏ハ自ラ奮テ人民ノ美術的趣味ヲ振起シ高尚ナル技能ヲ發
 達シメンコトヲ勉メタリ、而シテ其結果ハ早晚世ニ顯ハレ社會
 下層ノ人民ト雖モ其感化ヲ蒙ルニ至ルヘシ、
 又借料ヲ基礎トシテ課スル租税ハ夫ノ嫌忌スヘキ糾問的若シク

ハ家宅搜索ノ如キ性質ヲ帶フルモノニ非ラサルナリ、

或種類ノ動産ヲ免税スル事

余ハ凡テ前章ニ舉示セサリシ動産ニ對シテ免税スルコトヲ勸ム
 ヘシ、而シテ此種ノ動産ニ屬スヘキモノハ抵當物、約束手形、信用帳、
 單純ナル契約負債證及ヒ其他ノ私證券等ナリ、又通常脱税者多ク
 只不運ニシテ且ツ非常ニ正直ナル者ノミ能ク納税スル動産ハ全
 ク課税ヲ免除センコトヲ望ム、蓋シ狡猾ニシテ不正ナル者ノ爲メ
 ニ正直ニシテ不幸ナル良民ノ資財ヲ犧牲ニスルカ如キハ甚ダ不
 可ナレハナリ、

此種ノ財産ニ課税セントスル時ハ概シテ負債證書ヲ免税センコ
 トヲ望マス、シテハアラス、而シテ若シ資産家ニシテ右ノ如キ財産ニ
 課スル租税ヲ免レント欲セハ我法庭ノ判決ニ據レハ州税及ヒ地

方税ヲ課スル能ハサル合衆國公債ニ對シテ負債ヲ契約シ以テ之ヲ避クルコトヲ得ヘシ若シ負債ノ故ヲ以テ之ヲ動産ヨリ引去ルコトヲ許サ、ルトキハ(メーリーランド州ニ於テハ脱税ヲ防カシカ爲メ決シテ之ヲ許容セス)是レ法律ニ服従スル者ニ對シテ一大困難ヲ與フルモノナリト云ハサルヘカラス、又租税ヲ一般ニ賦課セシカ爲メ悉皆ノ所得ニ對スル税法ヲ設クヘキコトハ既ニ前章ニ於テ勸告シタル所ナルヲ記憶セサルヘカラス、而シテ吾人ノ前述セル總收入税ハ株金及ヒ公債ニ對スル租税ヲ包含スルモノナルカ故ニ吾人ハ茲ニ是等ノ租税ニ就テ論辯スルヲ要セサルナリ、余ノ觀察シタル所ヲ以テスレハメーリーランド州收税吏ノ手ニ成レル報告書ハ各種ノ財産ハ幾何ノ租税ヲ生スルヤヲ一々明細ニ表示セサルナリ、然レモホルチモールノ報告書中ニ於テハ余カ

全ク免税セント欲スル財産ヨリ徵集シタル金額ハ設令些少ニアラストスルモ比較的ニ甚ク少額ナルノ事實ヲ示シタリ、故ニホルチモール市以外ニ於テ課税スル此種ノ財産高ハ一層少額ナリト云フモ謬リナカラシク、蓋シ該市府ハ此種ノ財産ノ重ナル本據ナレハナリ、此問題ニ付テハ已ニ充分ニ論究シタルカ故ニ今更贅言ヲ加フルノ要ナシ、然レトモ論者屢々問フテ曰ク、「此種ノ財産ヲ悉ク免税セシメシヨリハ寧ロ其二割五分乃至四割丈ニテモ之ニ課税スルコト得策ナラスヤ、而シテ其收入ニ應シテ不動産ノ負擔ヲ輕減スルヲ得ルニ非スヤ」ト、余ハ猶豫セス、「否然ラス」ト答ヘシノモ、第一、正直ニシテ助ナキ人民ニ對シ不正ヲ行フハ不可ナリトス、若シ夫レ其制度ニシテ正義ニ基カハ從テ國家ノ繁榮ヲ來スヘキハ蓋シ歴史上萬古不易ノ眞理ナリ、豈ニ天啓教ノ信者ヲ待テ而シテ

後之ヲ知ランヤ、

第三、一方ニ於テハ此種ノ財産ノ僅少ナル申告表ヲ作ルカ爲メニ納税者ノ受クル損失ハ甚々僅少ナル(何トナレハ其表中ニ記入スヘキモノハ悉皆ノ動産ニアラスノ只徴收書ニ記載レタル項目ノミナレハナリ)ト同時ニ、他ノ一方ニ於テハ其法律上ノ免税ヨリ生スル利益ハ甚々大ナリトス、即チ是カ爲メ租税ノ全制度ヲ簡單ナラシメ其行政ノ勞ヲ省略スヘキナリ、人若シ以上ニ列記レタル動産中ノ一ヲ得ルカ爲メ資金ヲ投スルニ當リテハ蓋シ其動産ノ租税ヲ免ル、ヲ得ルヲ知ルニモ關セス尙ホ不確實ノ點アルノ故ヲ以テ萬一ノ爲ニ少額ナル歩合ヲ要求シテ之カ備ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ、例ヘハ余若シ約束手形ニヨリテ金圓ヲ借用セント欲セン乎、其貸手ニ若シ其手形ノ課税セラル、トナキヲ知ラハ願

フニ五分利ノ割合ヲ以テ余ニ貸渡スナラン、然レモ租税査定員ハ彼ノ財産ヲ調査スルカ故ニ彼ハ余ニ向テ云ハン、此手形ハ課税セラル、モ計リ難キヲ以テ別ニ一分ヲ準備シ置カサルヲ得ス、故ニ足下ハ六分ヲ拂ハサル可ラスト、斯ク論レ來リ余ハ思ハス前論ニ歸着セリ、夫レ此種ノ動産タル大抵ハ實際ニ脱税セラル、モノナリト雖モ其免除ヨリ生スル利益ハ法律上ノ免税ヲ行フ場合ニ於テノミ充分ニ普及スルヲ得ヘキモノナリ、是レ音ニ理論一片ノ説ニ非スレテ凡テ經驗アル銀行家ノ親シク實驗スル處ナリ、夫レ然リ夫ノ合衆國公債カ其購入者ニ取リテ實際投入ノ金額ニ對シニ分ヨリ少キ収益ヲ生スルカ如キ歩合ヲ以テモ尙之ヲ賣却スルヲ得ルハ何故ツヤ、又メーリーランド州公債ノ如キハ其利子僅カニ三分六厘五毛ナルニモ關セス直チニ之ヲ購入スル者アルハ何故

ツヤ、是レ他ナレ即チ此免稅法アルカ故ノミ、蓋レ此免稅法ノ爲ニ利ヲ得ルモノハ獨リ貸主ノミナラス、納稅者ニ於テモ之カ爲メ利益ヲ得ルコト少クナラサルナリ、或商人ノ如キハメーリーランド州租稅委員ニ向ヒ州公債ノ購買者ハ最重稅ヲ支拂フモノニシテ其重稅ハ公債ノ利子中ヨリ前金ニテ引去ラレタルコトヲ主張レタリ、誰レカ能ク此論旨ヲ駁撃シ去ルモノアルカ、若レ夫レメーリーランド州ニ於テ最モ高度ノ移動性ヲ有スル此種ノ動産ヲ法律上ニ於テ免稅スルコトセンカ、是レ單ニ此種ノ動産ヲシテ此州内ニ流入セシムルノ傾向ヲ増進スルノミ、而レテ其供給大ナルトキハ吾人ハ一層低廉ナル割合ヲ以テ之ニ課稅スルコトヲ得ヘキナリ、此點ニ於テハ不動産ハ之ト全然其趣ヲ異ニスルコト明白ナリト云フヘレ、又課稅スヘキ他ノ財産ノ場合ニ於テモ亦然リトス、

此免稅ヨリ生スル利益ノ普及

以上述ヘタル動産ヲ免稅スルヨリ生スル利益ノ普及如何ニ就テハ理論上ヨリ之ヲ論證センヨリモ寧ロ實際上ノ説明ニテ明白ナラント信ス、人若レボルチモール市ニ來リ先ツボルチモール街ヨリ北方ヲ指レテセント、ポール街若クハカルフヱルト街ニ出テ更ニ市外ニ歩ヲ轉スルアラハ必ス數多ノ新家屋若クハ建築中ノ家屋アルヲ見シ、是等ノ家屋ハ賣家若クハ借家ニシテ其價格及ヒ家賃ノ低廉ナルコト合衆國ノ大都府中其比ヲ見サルナリ、此地ニ於テ一ヶ月二十五弗ノ家賃ヲ拂フテ借リ得ヘキ家屋ノ如キハ其構造ト云ヒ其位地ト云ヒ合衆國中ボルチモール市ノ如キ他ノ大都府ニ於テハ五十弗以上ヲ拂ハサレハ得易カラスト云フモ過言ニ非ス、然ラハ此地ニ於テハ何故ニ斯クノ如ク數多ノ家屋ヲ新築シ

又何故ニ其代價ハ斯クノ如ク低廉ナルカ、人若シ抵當物ヲ免税スルカ如キハ毫モ之ト關係ナレト思惟センカ、請フ試ミニ親シク建築師若シクハ銀行家ニ就テ對話セヨ、其疑念ヲ氷解スルト易々タルヘキノミ、若シ抵當物ニシテ課税セラレシカ、貯蓄銀行ハメーリーランド州ニ於テ右ノ如キ諸改良ニ其資金ヲ投セサルヘキノミナラス、實際之ヲ投スル能ハサルヘキナリ、而シテ此免税法アルカ爲メニ彼等ハ其資金ヲ之ニ投セリ、然レモ若シ抵當物ニシテ課税セラレ、時ハ現ニメーリーランド州ニ消費スル金錢ハ忽チ西部諸州ニ向テ流出スヘキト恰モ近來ニニューハムプレンヤイア州ヨリ凡ソ三千萬弗ヲ他州ニ流出セシメタル如クナラン、然ラハ何人カ此免税ノ爲メニ利益ヲ受クルヤト云フニ其利益ハ小數人ニ止マラス、施テ社會一般ノ利益トナルナリ、即チ第一ニ職工ハ之カ爲メ利

益ヲ受クヘシ、何トナレハ之カ爲メ其職業愈々繁忙トナレハナリ、而シテ抵當物税ハ彼ニ對シ直接ナル損害ヲ與フル者ナリ、加之ナラス抵當物税ヲ課スルトキハ家賃増額スルニ至ラン、又チ不動産所有者モ家屋新築等ノ如キ諸改良ヨリ利益ヲ受クルト等シク此免税ニヨリテ利益ヲ受クヘキナリ、何トナレハ之カ爲メ地價騰貴スヘケレハナリ、又チ農夫ハ之カ爲メニ州内ニ於テ其生産物ヲ賣却スヘキ好市場ヲ得ルノ利益ヲ見ルヘク、商人ハ之カ爲メニ大ニ其販賣高ヲ増加シテ利益ヲ得ヘキナリ、而シテ貸金者モ亦利益ヲ得ヘント雖モ其利益タル敢テ他ノ人民ヨリモ大ナルコトナキナリ、

第十二章 貯蓄銀行、教會、教育及慈善事業ニ

課スル税法

貯蓄銀行

本章ハ余カ嘗テメーリーランド州租税委員ノ資格ヲ以テ起草スル報告書中ノ再版ニ係ル一部分ニ少ク訂正ヲ加ヘタルモノナリ、而シテ其之ヲ轉載シタル所以ノモノ他ナシ、蓋シ實際上ノ討究ハ却テ一層適切ナルヲ信スレハナリ、又メーリーランド州ニ就テ論シタルハ他州ニモ之ヲ適用スルヲ得ヘケレハナリ、夫レ貯蓄銀行ハ立法部ノ殊ニ注意スヘキモノナリ、蓋シ貯蓄銀行ナルモノハ人民ノ貧困ト罪惡トヲ預防シ人民ヲシテ眞個ニ獨立ノ民タラシメ以テ其生活ノ度ヲ進メ且ツ社會ノ富ヲ増加シ、以テ文明發達ノ利器タルモノナルカ故ニ政府ハ宜シク正當ナル方法

ヲ以テ之ヲ保護セサルヘカラス、若レ夫レ人民ノ取得セシ資金ノ多分ニレテ貯蓄銀行ニ預ケ入レラル、トナレトセンカ、顧フニ其ノ大半ハ空シク古財布若レクハ箱底ニ秘藏セラル、カ、然ラサレハ全ク無益ニ浪費セラル、ナラシ、我南部ノ諸州ニ於テハ貯蓄銀行ノ數極メテ少ナキカ故ニ之カ設立ヲ獎勵スルハ今日ノ急務ナリト云ハサル可ラス、蓋シ預金ノ大半ハ自ラ一身ヲ保護スル能ハサル地位ニ立テル薄弱助ナキ者若レクハ文盲ナル人民ノ貯蓄セル所ナリトス、夫ノ貯金高一千六百萬弗ニ上リタリト云フ有名ナルボルチモール府中最大ノ貯蓄銀行、頭取ノ計算ニ據レハ其貯金高ノ九割ハ此種ノ人民ノ貯蓄セル者ニレテ、貯蓄者ノ内六割ハ婦人ナリト云フ、而シテ之ニ關シテハ深ク注意シテ二個ノ害患ヲ避ケサル可ラス、即チ一ハ課税ニ由リテ貯蓄銀行ヲ壓倒スルノ患ニシ

テ、一ハ重税ノ爲メ資本ノメーリーランド州ヲ去リテ西方ノ地ニ流出スルノ患是ナリ、若レ夫レ三千萬弗ノ資本ニレテ一朝吾地ヲ去ルカ如キト有リトセンカ、是レ頗ル吾人ニ取リテ不得策タルヘシ、然ルニ其資本ノメーリーランド州ヲ脱スル敢テ難キニ非サルヲ想ハ、吾人ハ益、注意シテ能ク之ニ備フル所ナカル可ラサルナリ、又是等ノ銀行ハ實ニ慈善的事業ニレテ其役員ノ如キモ概シテ無報酬ニテ事務ヲ執ルモノナルコトハ吾人ノ深ク記憶セサルヘカラス所ナリ、
嘗テ是等銀行ノ頭取等ハ公益ヲ理由トシテ預金免稅ノ事ヲ唱道セシコトアリ、又或ハ課税ノ能ハサル證券ノ中ニ包含セラレサル一口百弗以上ノ預金ハ之レニ對スル仕拂利子ヲ直チニ六分利附ノ割合ヲ以テ資本金ニ引直シ、普通ノ稅率ヲ以テ之レニ課税スヘ

キノ議ヲ提供セシコトアリ、其ノ孰レノ方法ニ依ルトスルモ兎ニ角是等銀行ノ管理者ヲシテ現行法律カ預主ノ爲メニ規定スルヨリモ一層嚴重ナル警戒ヲ爲サシメテ及フ可キ限り禍機ヲ未萌ニ防クヲ努ムルコト至當ノ策ナルヘシ、何トナレハ貯蓄銀行ノ失敗ハ實ニ恐ルヘキ災禍ニシテ其怠慢投機若シクハ不正ノ行爲ニ由リテ之ヲ生セシメタル者ノ如キハ充分ニ處罰ヲ受クルノ責アレハナリ、而シテ余カ茲ニ現行法律ヨリモ一層嚴重ナル警戒云々ト説キタル所以ノモノハ蓋シ吾ボルチモ一諸貯蓄銀行ハ法律ニ依ラス其隨意ヨリシテ適當ノ警戒法ヲ實行シ來リタル事實ノ信スヘキモノアレハナリ、又其警戒法規ノ必要ナル所以ハ他ナシ、凡ソ此種ノ銀行ヲ支配スル法律ヲ嚴ニシテ其報告ノ發表及ヒ其他警戒法ヲ嚴密ニ取締リ以テ其銀行ヲシテ完全ニ信依スルニ足

ラシムヘキハ實ニ禍機未ダ到ラサルノ時ヲ以テ最モ必要トスルカ故ナリ、又資産家ヲシテ此等ノ銀行ヲ不當ニ濫用セシメサル爲メニハ每一人ノ預金額ニ制限ヲ定ムルモ不可アルナレ、又免許税法或ハ其他ノ方法ニ由リテ無責任者ノ不確實ナル銀行ヲ創立スルノ弊ヲ防クハ肝要ナリトス、ニユーヨーク及ヒ其他ノ地ニ於テ不安全ナル貯蓄銀行ノ爲メニ非常ノ大害ヲ及ボシタルハ其例既ニ乏シカラス、然リ而シテ貯蓄銀行ノ預主中ニハ富有ノ人或ハ富家ノ子弟アルハ余ノ容易ニ承認スル所ナリト雖モ之ニ重税ヲ課セントスル論者若シクハ今日ヨリモ重税ヲ課セントスル論者トハ到底一致スルヲ得サルナリ、余ハ一方ニ於テ吾貯蓄銀行ニ於ケル預金ノ多大ニシテ益々増進スル狀アルニ關シ新聞雜誌等ノ説ク所甚ク誇張ニ過クルヲ知ルト同時ニ、他方ニ於テハ其無量

キノ議ヲ提供セシコトアリ、其ノ孰レノ方法ニ依ルトスルモ兎ニ
角是等銀行ノ管理者ヲレテ現行法律カ預主ノ爲メニ規定スルヨ
リモ一層嚴重ナル警戒ヲ爲サレノ以テ及フ可キ限リ禍機ヲ未萌
ニ防クヲ努ムルコト至當ノ策ナルヘレ、何トナレハ貯蓄銀行ノ失
敗ハ實ニ恐ルヘキ災禍ニシテ其怠慢、投機若クハ不正ノ行爲ニ
由リテ之ヲ生セシメタル者ノ如キハ充分ニ處罰ヲ受クルノ責ア
レハナリ、而レテ余カ茲ニ現行法律ヨリモ一層嚴重ナル警戒云々
ト説キタル所以ノモノハ蓋レ吾ボルチモール諸貯蓄銀行ハ法律
ニ依ラス其隨意ヨリレテ適當ノ警戒法ヲ實行シ來リタル事實ノ
信スヘキモノアレハナリ、又其警戒法規ノ必要ナル所以ハ他ナレ、
凡ソ此種ノ銀行ヲ支配スル法律ヲ嚴ニシテ其報告ノ發表及ヒ其
他警戒法ヲ嚴密ニ取締リ以テ其銀行ヲレテ完全ニ信依スルニ足

ラシムヘキハ實ニ禍機未ダ到ラサルノ時ヲ以テ最モ必要トスルカ
故ナリ、又資産家ヲレテ此等ノ銀行ヲ不當ニ濫用セシメサル爲メ
ニハ每一人ノ預金額ニ制限ヲ定ムルモ不可アルトナレ、又免許税
法或ハ其他ノ方法ニ由リテ無責任者ノ不確實ナル銀行ヲ創立ス
ルノ弊ヲ防クノ肝要ナリトス、ニユーヨーク及ヒ其他ノ地ニ於テ
不安全ナル貯蓄銀行ノ爲メニ非常ノ大害ヲ及ボレタルハ其例既
ニ乏レカラス、然リ而レテ貯蓄銀行ノ預主中ニハ富有ノ人、或ハ富
家ノ子弟アルトハ余ノ容易ニ承認スル所ナリト雖モ之ニ重税ヲ
課セントスル論者若クハ今日ヨリモ重税ヲ課セントスル論者
トハ到底一致スルヲ得サルナリ、余ハ一方ニ於テ吾貯蓄銀行ニ於
ケル預金ノ多大ニシテ益々増進スル狀アルトニ關シ新聞雜誌等
ノ説ク所甚ク誇張ニ過クルヲ知ルト同時ニ、他方ニ於テハ其無量

ノ利益アルヲ信セサル人ハ預金事業ノ實際ヲ知ラサルモノナリト言フヲ憚ラサルナリ、

預備中央貯蓄銀行ノ頭取ナルフランシス・テイ・キング(Francis T. King)氏ノ厚意ニ由リ余ハ茲ニボルチモール貯蓄銀行ノ好成績ニ關シ其統計ヲ與フルヲ得タリ、乃チ左ニ氏ノ惠贈セル書簡ト圖表トヲ掲ケントス、

『親愛ナル博士イーリー君足下 今ヤ足下ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルヲ得ルハ余ノ甚々悦ブ所ナリ、但シ圖表ニ列記セル「ボルチモール」イニータウ及セントラル等ノ諸貯蓄銀行ヲ除クノ外其他ハ皆内亂戰爭以前ノ創立ニ係ルモノナリ、

第一、當市ニ於テ八十個ノ貯蓄銀行アリ、

第二、預者金ノ數ハ都ヘテ十萬五千百七十二ニシテ、其内郡部

ニ住スル者、教會及慈善協會并ニ同時ニ數銀行ノ華客タル者ヲ差引ケハ其數九萬五千ニ減ス、其預金總額モ亦之ニ應シテ減少スヘシ、而シテ預金平均額ハ左ニ掲クル金額ヲ變スルヲナカルヘシ、

第三、預金平均額ハ二百九十七弗七十五仙ナリ、

第四、利率三分ニ減少セシヨリ以來稍貧窮ナル預主ノ數ハ殆ント九割トナリ、其預金モ亦殆ント同一ノ割合ナリトス、現時ニ於テハ多額ノ預金即チ三千弗以上ノモノハ頗ル尠少ニシテ、是等ハ多クハ小貯金ヲ積立來リシ舊來ノ預主ニ屬セリ、是レ利率低減以來多額ノ預金ヲ有スル者多クハ之ヲ引出シテ小銀行ニ移シタルカ故ナリ、

余ハ又國立銀行及州立銀行ニ於ケル割引手形及預金ノ統計ヲ

舉ケテ比較ノ資ニ供セントス、

- (一) 國立銀行及州立銀行ノ數 二四
- (二) 資本金 一三、七八八、七六〇・〇〇
- (三) 個人ノ預金 二一、六七七、二八六・二四
- (四) 個人的預主ノ數(見積リ) 二一、二四二
- (五) 各預主ニ對スル預金平均額 一、〇二五・三七
- (六) 他銀行及合衆國政府ノ預金 四、二三四、六七六・〇〇

頓首敬具

フランシス、テイー、キング

追申 貯蓄銀行ニ於ケル預金ノ六割ハ婦女カ其自己ノ名義ヲ以テレ或ハ其夫婿ト聯帯レテ預入レタル所ナリ、

ボルチモールニ於ケル貯蓄銀行統計表

一八八七年十二月卅一日	預金ノ口數	現在ノ預金額
「ボルチモール」貯蓄銀行	四七、二七〇	一六、三三〇、三三七・一六
「イニータウ」貯蓄銀行	二八、二三八	八、九一三、七五二・六一
中央貯蓄銀行	一一、六五八	二、五九七、四七五・二七
「メトロポリタン」貯蓄銀行	二、九四九	一、四三〇、二〇二・八八
日耳曼貯蓄銀行	二、四三五	九二七、三〇七・八三
「メーリーランド」貯蓄銀行	一、四一五	四二六、〇六七・五八
「プロヴンデント」貯蓄銀行	五、四二一	六六、九九七・六六
「ホップスキンス、プレス」貯蓄銀行	九八〇	一一〇、一二六・三五
「プロードウェイ」貯蓄銀行	二、六〇一	三〇一、三五一・八一
「ポールドー、ステート」貯蓄銀行	一、二〇五	二二一、九三七・〇八
合計	一〇五、一七二	合計三一、三一五、五五六・二三

各預主ノ預金平均額

二百九十七弗七十五仙

「何レノ銀行モ安全ノ一事ヲ以テ其箴戒トナサ、ルヘカラス利率ノ高下如何ノ如キハ畢竟第二ノ問題ナリトハキング氏ノ一言寔ニ肯綮ヲ得タリト謂ツヘシ、

教會堂

教會ノ堂舎ニ課税スルノ當否ハ社會ノ公益ニ關スル廣汎ナル理由ニヨリテ論究スヘキ問題ナリ、若シ夫レ其免税ニシテ果シテ一般ノ福利ヲ増進スルニ足ランカ、則チ之ヲ免税スルヲ至當ナリトス、

爰ニ二個ノ問題アリ、曰ク教會ハ果シテ社會人民ノ智識上、道德上及ヒ經濟上ノ利益ヲ増進セシムルモノナル乎、曰ク若シ全ク宗教用ニ供スル財産ヲ免税スルトセハ之レカ爲メ果シテ其教化上ノ

動作ヲ裨益スヘキ乎ノ問題はレナリ、カリフォルニア州ヲ除クノ外諸州ノ此二問ニ答フル所ハ孰レモ皆然リト云フニアラサルハナシ、余ハ固ヨリ一方ニ於テハカリフォルニア州ニ於ケル現行制度ノ變革ヲ主張スルヲ得サルト同時ニ、又メーリーランド州ニ於ケル舊慣習ノ變革ヲ唱導セント欲スルモノニアラス、然リト雖モ余カ同僚ノ起草ニ係ル報告書中左ノ一節ノ如キハ實ニ余ノ意見ト符合スルモノナリ、曰ク

「現行法律ノ下ニ於テ査定官カ禮拜用ノ建物ニ屬スル地處收入ヲ生セサルモノヲ取扱フニ當リテハ凡テ其之ヲ免税トナシ居レリ、是ヲ以テホルチモール市ニ於テハ大地處ヲ買入レテ其一隅ニ教會若シクハ禮拜堂ヲ建設スルハ其地處ハ全ク免税セラレ、ヲ得ヘシ、而シテ其周圍ノ財産改良セラレ、ニ至ルマテ

ハ敢テ費用ヲ要セスノ教會所屬ナル空地ノ價モ自ラ大ニ増昂スルニ至ルヘキナリ、即チ奇特ナル教會員ノ如キハ其高尚ナル趣味ヲ滿サンカ爲メ或ハ又其心ノ愉快ヲ得ンカ爲メ自費ヲ以テ高價ニシテ莊麗ナル建物等ヲ設備スヘケレハナリ、然レトモ宗教的團躰ハ元ト社會公衆ト均シク政府ノ保護ニ依リテ其土地所有ノ安全ヲ得ルモノナレハ公衆ト共ニ同一ノ租稅ヲ州又ハ郡ニ納ムルコトナクハ教會近傍ノ改良ニヨリテ自然ニ地價ノ昂騰スル場合ニ於テ其富ヲ増加スルノ權利アリト主張スル能ハサルヤ明カナリ、此故ニ吾人ハ禮拜用ノ建物并ニ之レニ必要ナル地處即チ今日査定官吏ノ法律解釋上及其弊害ヨリ觀察シテ最モ適當ナラント思考スル建物ノ兩側十呎ノ地處ヲ除クノ外ハ凡テ牧師ノ家宅及其他教會附屬ノ財產ニ至ルマテ之ニ

課稅スルモ決シテ不正當ナラサルヘキヲ信シタリ、

教育及慈善的事業

余ハ法人トナリタル大小學校ノ財產ニ課スル租稅ニ關シテハ皆テ余ト俱ニ租稅委員タリシ吾同僚ノ意見ニ從フコトヲ得サルナリ、蓋シ納稅者ニ利益ヲ與フルモノ未タ嘗テ此免稅ノ如ク大ナルモノアラサレハナリ、若シメーリーランド州ニシテ州内ノ青年ニ對シ完全ナル教育制度ヲ供スルコト恰カモミンガン州ノ如クシ、以下ハ普通ノ學校ヲ始メトシ上ハ漸ク進シテミンガン大學ノ如キ宏壯ナルモノヲ建設スルコトアリトスレハ願フニカリフォルニア州ト同シク私立學校事業ニ課稅スルモ敢テ不可ナカルヘシ、然レトモ斯クノ如キ制度ヲ興サント欲セハメーリーランド人民ヲシテ毎年五十萬弗ヲ出サシメサルヘカラス、而シテ今日ニ在リテハ

是等ノ金額ハ彼等人民カ毎年其囊底ニ蓄積スル所ナリトス、夫レ然リ故ニメーリーランドニシテ斷然公立制ヲ以テ完全ナル教育ヲ其青年ニ供スルヲ決定スルニ至ル迄ハ夫ノ今日方サニ致々トシテ此缺遺ヲ補ハンヲ努メ以テ社會ニ無量ノ利益ヲ與フル人々ニ課税セントスルカ如キハ實ニ愚策ト謂ハサルヘカラス、ワシントン、シエフアソンノ二人ハ公私ノ文書ニ於テ幾回トナク高等教育ノ必要ヲ論シ、人民ノ福利ト善良ナル自由制度トヲ維持スルニハ其主要缺クヘカテサル所以ヲ痛言セリ、ワシントンハ常ニ壯大ナル國立大學ノ利益ヲ說キ國人ニ勸メテ止マス、嘗テ或大學ノ創立セラル、時ノ如キハ其「ボトマツク」會社ニ於ケル所有株券ヲ寄贈シテ以テ其贊成ヲ表シタリ、千七百九十五年三月十六日ニ於ケル書簡ニ於テワシントンハ其唱導スル國立大學ニ就テ述

ヘテ曰ク、「是故ニ一般教育法ヲ合衆國ニ採用スヘキノ機ハ今ヤ既ニ來レリ、何トナレハ社會公私ノ生活上其必要ヲ感スルノミナラス、又若シ聯邦中ノ一部ニシテ其他ニ向フテ偏見ヲ抱懷スルカ如キ處アリトセハ其弊ヲ救済スルノ良策ハ唯諸州ノ青年ヲ一處ニ集メテ其交際ヲ親密ナラシメ互ニ其思想ヲ交換セシメ以テ其心ニ真理、慈善、及相互親和ノ情ヲ養ハシムルニアレハナリト」更ニ又其告別演說ニ於テハメーリーランド人民ノ宜シク肺肝ニ刻銘スヘキ數語アリ、其辭ニ曰ク「是ヲ以テ第一必要ノ目的トシテ智識普及ノ制度ヲ發達センメヨ、政治組織ノ愈々輿論ヲ重ンスルニ從ヒ輿論ハ倍々之ヲ研磨シテ聰明ナラシメサルヘカテサルナリト、シエフアソンハ嘗テヴァーヂニアニ於テ小學ヨリ大學ニ至ル完全ナル教育制度ノ制定ヲ主張シ、小學ナルモノハ更ニ高等ノ學校ア

リテ之ヲ鼓舞誘導スルニ非レハ到底唯可モナキ不可モナキ一組織タルニ過キスト論レタルトアリ、是レ定ニ正當(吾人ハ經驗ニ徴レテ其正當タルヲ知ル)ノ見解ナリト謂フヘレ、而シテ彼モ亦ワシントシノ如ク教育制度ニ就テハ特ニ大學ノ事ニ熱心シテ一段活潑ナル盡力ヲナセリ、ヴァーヂニア州會ノ教育案ニ關スル報告是レ同僚諸氏ト連署セルモノニシテ彼自テ其文ヲ草セサリシニモセヨ其旨意ハ彼ノ意ニ出タルモノナランニ於テハ左ノ如キ言アリ、曰ク「輿論ハ政府ノ基礎トナリ政府ハ唯輿論ノ機關トシテ働ク所ノ自由國ニ在リテハ輿論ヲ研磨シテ之レヲ發達セシムルト最モ必要缺ク可ラサルナリ」ト、又ヴァーヂニア大學創立ノ件ニ關シテ大ニ論スル所アリ、曰ク「斯クノ如キ事業ノ利益ハ實ニ廣大無量ト謂ハサルヘカラス、夫レ今日ノ實際ヲ觀ルニ吾青年ノ大部分ハ皆州外

ニ負笈シテ時トシテハ合衆國內ヲ去テ遠ク身ヲ天涯萬里ノ外國ニ寄セ以テ學術ヲ研修シ或ハ職業ノ上達ヲ勉ムル者アリ、而シテ之レカ爲メ年々海外ニ輸出スル所ノ金額ハ實ニ尠少ニアラサルナリ、斯クノ如ク吾國青年ハ其判斷力未タ能ク熟セサルニ當リ其故國ヲ離去スルヲ以テ其外國ニ於テ涵養セル風習ト意見トノ如キハ往々其本國人民ト相容レサルトアルハ亦已ムヲ得サルナリ、而シテ彼等ハ其兩親及祖先ノ習慣及ヒ主義ニヨリテ養成セラレサルカ故ニ販來ノ後其生土ニ對シテ稍、外國人タルノ趣キアルヲ免レズ、經世家タルモノ豈深ク青年教育ノ如何ニ密接ニ社會ノ盛衰ト相關シ須臾モ相離ルヘカラサルモノナルヤヲ考察シ以テ之ニ處スル所ナクノ可ナランヤ、蓋シ教育ノ事ハ愛國ノ一點ヨリ云フモ將タ又國家利害ノ點ヨリ考フルモ政府ノ必ス盡瘁セサルヘカラサ

ル高尚嚴肅ナル一義務ナリト、斯クテヴァージニア大學ハ愈々創立セラレ今日ニ至リテハ其州ハ之レカ維持ノ爲メニ一年四萬弗ヲ支出スト云フ、

ジョンズ、ホップキンス(Johns Hopkins)ノ寄附金ニヨリテボルチモールニ設立セラレタル大學ノ旨意ハ實ニ能クロシントシ、ジエツプアイソソノ所見ト符合スルコト合衆國中他ニ比類ナキナリ、抑モ此大學ハ各地ノ青年ヲ集メ愛國ノ感念ヲ一ニ歸セシムルモノニシテ、國內ニ於テ吾青年ノ高等教育ヲ司リ以テ彼等ヲシテジエツプアイソソノ嘗テ慨嘆シタルカ如キ其生土ノ實情ヲ忘ル、ノ弊ナカラシムルモノ蓋シ此大學ニ若クハナカルヘシ、但シ高等教育ノ常トシテ終局ノ報酬ハ擧ケテ數フ可ラスト雖モ之ヲ狹義ヨリ考フル時ハ利益ナキヲ免レス、此ジョンズ、ホップキンス大學ノ如キモ亦學

生ヨリ徴收スル謝金額ハ爾來其經費ノ十分一ヲモ填スニ足ラザリシナリ、然ルニ今此等ノ事業ニ課税スルコトアラン歟、是レ實ニ其實益ヲ削傷スルモノト謂ハサルヘカラス、何トナレハ斯ル事業ハ天稟ノ英才ニ富ムモ不幸ニシテ貧困ナル青年子弟ヲシテ雋秀ノ人タラシメ他日社會ノ恩人タラシムルニ大ニ與ツテカアルモノナレハナリ、借問ス吾高等學校ノ學費ヲシテ頗ル多大ナラシメ以テ富人ノミ專ラ之レニ就クヲ得セシムルカ如キハ果シテ立法部ノ望ム所ナル邪、是レメーリーランド州ニ於テ行フヘキ事ナル邪、是レ吾人ノ誇揚スル民主政治ノ精神ナル邪、二三ノ擬縉紳者流ハ或ハ學生ニ恩惠ヲ與フルコトヲ廢シ授業料ヲ三倍トナスヲ喜フナルヘシ、然レトモ營々トシテ怠リナキ人民ニ至リテハ果シテ之レヲ望ムヘキ邪、青年ノ爲メ敢テ大學ヲ供スルコトナク若シ之

レヲ設立セント企ツルモノアレハ却テ之レニ課税シ以テ連邦諸州中ニ至愚ノ高名ヲ博セント欲スルカ如キハ果シテメーリーランド州ノ冀フ所ナル邪、

病院モ亦營利事業トシテ取扱ハレタリ、然レトモ是レ決シテ近々ノ内ニ開創セントスル「ホップキンス」病院設立委員ノ旨意ニハアラスナルナリ、又假令然リトスルモ此事業ノ利益ノ如キ豈ニ千萬ヲ積ムノ素封家ノミ獨リ之ヲ享受スルノ理アランヤ、蓋シ之レニ課税セント欲スルモノ、如キハ吾カ國立學校制度ヲ目スルニ割烹店ヲ以テスルモノ、陋見ノミ、

余カ先ツ第一ニ是等二個ノ事業ヲ掲ケタルハ是レ余ノ最モ能ク熟知スル所ナルカ故ナリ、然レモメーリーランド州ノ著レキ名譽トノ世ニ知ラレタル他ノ慈善的事業モ若シ課税セラル、如キ

アラハ其廢滅ニ歸スヘキハ當ニ右ノ二事業ト異ナルヲナカルヘシ、何トナレハ其旨意トスル所決ノ營利ニ基クモノニアラサレハナリ、而シテ「プラット圖書館」「ビーボデー圖書館」及「吾州ノメンアイスト」教會ノ同胞等カ今ヤ設立ニ着手セル婦人專門學校等ノ如キモ亦同シ、是等ノ事業ハメーリーランド州内ニ世ノ青年ヲ招致スルノミナラス其一族モ亦往々之ニ伴フテ來ルヲアルヘシ、其利益タル者ニ吾人ノ之レヲ享有スルノミナラス更ニ又此州ヲシテ南北人民愛好ノ住タラレムルモノニシテ是レ實ニ吾人ノ誇示スヘキ名譽ナリト謂フヘシ、然レトモ若シ一旦之レニ課税セン歟、吾州今日ノ樂土ハ忽チ一轉シテ寂寞ノ郷トナルヘキナリ、而シテ之カ爲メニ毎年幾百萬弗ヲ州外ニ流出セシムルニ至ルヘク、又之カ爲メニ税源ヲ減殺シ愈々租税ノ負擔ヲ加重スルノ已ムヲ得サルニ至

ラン、果シテ然ラハ州内ノ人民皆其損害ヲ免レサルノミナラス、殊ニ他州ヨリ此州ヲ慕ヒ來リシ者ヲ目的トシテ營業セル人々ノ如キハ全ク零落ニ歸スヘキナリ、

第十三章 租稅ノ實際ニ關スル詳細及其行

政機關

州及市府ノ歲入ニ關スル行政機關ハ國家一般ノ行政上頗ル主要ナルモノナリ、讀者若シ此問題ヲ究メント欲セハ宜シク行政ノ書ニ就テ之ヲ考フヘキナリ、然リ而シテ本章ニ掲ケタル題目ニ關シ到底餘蘊ナク茲ニ之ヲ論述スルヲ能ハサルヲ以テ余ハ唯二三ノ一般原則ヲ擧ケテ讀者ノ注意ヲ惹キ、而シテ更ニ市府及郡ノ租稅査定法ニ就テ詳説スル所アルヘシ、

前來論シタル所ニヨリテ之レヲ觀レハ地方稅ニ關スル收稅吏ト州稅ニ關スル收稅吏トハ劃然相分メサルヘカラサルヤ明カナリ、即チ前者ニ委スルニハ不動產課稅ノ任ヲ以テシ、夫ノオハヨリ州ノ郡會計検査官ノ如キ郡官一人ノ監督ノ下ニ屬セシメ以テ其事

務ヲ取扱ハシメサル可ラス、而シテボルトモールノ如キ郡内ニ存セサル市府ニ在リテハ宜シク其市廳ヲシテ專ラ不動産税ノ査定及徴收ノ任ニ當ラシムヘキナリ、又ニニューヨーク、フネラデルフォア等ノ如キ大市府ニ在リテハ租税行政上全ク市郡ヲ同一視スルヲ可ナリトス、斯クノ如キ市府ニ在リテハ郡政廳ノ存シタリトテ果シテ何ノ益スル所アルヤヲ知ルニ困マサルヲ得ス、故ニ余ハ郡政廳ノ存在セサリシハ實ニバルチモール市ニ取リテ純然タル幸福ナリシヲ斷言シテ憚ラサルナリ、然リ而シテ州及郡ノ租税行政ハ各々責任ヲ有スル長官一人ノ監督ニ屬セシメサルヘカラス、此ノ如キ長官ノ設ケナキ諸州人民カ實際之カ爲ニ不平ヲ鳴シテ止マサルハ吾人ノ一般ニ觀察スル所ナリ、故ニオハヨーノ州會計検査官又ハチヨールチアノ出納監督長ノ如キ大ニ權力ヲ有スル官吏

ヲ任命スルハ善良ナル租税行政機關ニ最モ必要ナリトス、若レ一郡ニ於テ右ノ如キ機關ノ存スルアラハ郡内ニ於ケル不動産税ノ査定極メテ公平トナリ敢テ困難ヲ生スルコトナカルヘキナリ、財産税ハ常ニ隨意賣買ニ於ケル真正ノ賣買價格ニ由リテ査定スヘク、決シテ公賣ノ如キ強制價格若シクハ競賣價格ニ由ラシムヘカラス、若シ然ラサルトキハ爲メニ行政權濫用ノ途ヲ開キ不正ノ弊ヲ生スルヤ疑ナシ、而シテ其何方故ニ然ラサルヘカラサルヤノ理由ニ至テハ請フ千八百八十六年ニ於ケルイリノイ州歳入委員會ノ報告ヲ借來リテ之レヲ説明セン、其說ニ曰ク

「法律ハ凡ヘテ財産ヲ査定スルニ公平ナル正價ニ由ルヘキコトヲ規定セリ、然ルニ査定官吏ハ此規定ヲ遵守スヘキコトヲ懸念シニ拘ラス實際ニ於テハ大ニ之ニ反セリ、彼等カ不動産ヲ査定スル

ヤ一般ニ其價格ノ三分ノ一或ハ往々之ヨリ以下ノ割合ニ於テ
レ、特ニ動産ノ如キハ更ニ之レヨリ甚シキモノアリ、若シ其減價
法ニシテ悉ク均一ナリトセハ或ハ姑ク恕スヘント雖モ實際決
レテ然ラサルヲ以テ其及ホス所ノ弊害ハ實ニ鮮少ニ非サルナ
リ、即チ査定官吏ハ法律ノ標準ヲ棄テ願ミス、何ノ憑據モナク又
制限モナク唯自家ノ變動極マリナキ判斷ニ依頼シテ事ヲ行ヒ
且ツ有力ナ納税者ノ鼻息ヲ窺ヒ其財産價格ノ申告甚々低下
ニ過クルモ敢テ問ハサルナリ、各地方カ別稅賦課ノ割合不平均
ナルノ弊ヲ除カントテ請願スルモノ多キカ如キ以テ低價査定
ノ今日實際ニ行ハル、ヲ知ルニ足ルヘシ、而シテ此傾向タル低價
査定法ハ稅額ノ減少ト相伴ヒ全價査定法ハ納稅額ヲ増加スル
モノナリト云フ感念ノ爲メ尙ホ其ノ勢ヲ増進セリ、

委員會ハ本問題ヲ查究シ以テ低價査定法ノ爲メ不公平ナル租
稅査定ノ弊尙ホ其甚シキヲ加ヘタルヲ悟了セリ、
抑モ低價査定法タル彼此ノ財産査定價格間ニ著シキ不平均ア
ル場合ニ於テハ其不公平ノ事實忽チ人目ヲ惹キ自ラ矯正セラ
ル、ニ至ルヘント雖モ其不平均些小ナル場合ニ於テハ其不公
平ノ弊害ノ如キハ常ニ世人ノ注目ヲ免ル、ナリ、又實際低價ニ
査定セラレタル財産所有者ノ如キハ假令其價格ハ隣人ノ財産
ニ比スレハ稍高價ナルヲ知ルモ自己ノ財産已ニ低價ニ査定
セラレタルノ事實ハ彼ヲ其口ヲ緘セシムルノ禁反言トナル
ナリ、即チ彼レ財産所有者ハ其財産ノ評價比較的ニ高キニ失レ
タルヲ愬フルヲ得ス、而シテ又其隣人ノ財産過廉ニ評價セラレ
タルヲ知ルモ交誼ノ情ト仁恕ノ心トニ制セラレ遂ニ其不平ヲ

鳴スニ至ラサルナリ云々、

宣誓

宣誓ニ關シテハ已ニ一言シタルコトアリト雖モ吾人ハ更ニ改メテ茲ニ之ヲ論セント欲ス、普魯西ニ於テハ租税上ニハ宣誓ヲ用フルコトナク、英國モ亦格外ノ場合ニ在ラスンハ之レヲ要スルコトナシ、即チ所得稅表ニ其納稅者ヲシテ署名セシメ「余ハ云々ニ就テ宣言ス」ト云フ定式ヲ履マシムルカ如キ是レナリ、而シテ若シ其宣言ニシテ虛偽ナルトキハ必ス其稅額ノ三倍ト二十磅ノ罰金ヲ課スルナリ、イリノイ州歲入委員會ハ嘗テ其ノ報告書中宣誓ニ就テ説テ曰ク、

「個人ノ申告ニヨリテナサル、動産ノ課稅法ニ關シテハ吾人ハ動産記載簿ニ宣誓セシムルモ到底其隱匿ヲ防クノ効ナカルヘ

キヲ信シタルヲ以テ斯カル規定ハ之ヲ廢除シタリ、吾人ノ信スル所ヲ以テスレハ斯カル規定ハ却テ人ノ良心ヲ害シ社會道德ヲ頹敗セシムル者ニシテ是レ恰カモ法律ヲ以テ詐欺ヲ獎勵スルニ異ナラサルナリ、夫レ忌憚ナキ不良ノ人民ニ在リテハ如何ニ宣誓セシムルモ毫モ其財産記載簿ノ眞實ナル證左トナスニ足ラサルヘク、又正直ナル納稅者ニ對シテ其他人カ大抵之ヲ願ミサルコトヲ了知スル所ノ義務ヲ其良心ニ負ハシムルカ如キハ皆ニ不正ナルノミナラス壓抑モ亦甚シト謂ハサルヘカラス、況ンヤ斯カル規定ヲ設クルモ未タ曾テ在定官ノ發見シ得ザリシ財産ノ摘發セラレタルコトアルヲ知ラサルニ於テヤ、故ニ吾人ハ斷然宣誓ヲ廢シ、而シテ之レニ代フルニ偽報告ニ對シ金錢上ノ刑ヲ課スルノ規定ヲ以テスルコトヲ主張シタリ、云々」ト、

是ニ由リテ之ヲ觀レハ財産申告表ニ宣撫ヲ廢スルハ概シテ其當
ヲ得タルモノ、如シ然レトモ租税官ヲシテ其見込ニヨリテ宣撫
ヲ要求セシムルコトナカルヘカラス、

査定官及收税官ノ如キ一年以上ノ長期間其職務ニ當ル可キ役員
ハ極メテ其撰任ニ注意スヘキコト言フ俟タス、而シテ夫ノ郡税部及
州税部ノ諸長官ノ如キ撰舉セラル、者ヲ除クノ外ハ凡テ文官登
用規則ニ由リテ任命スルヲ適當ナリトス、以上ノ諸長官ト雖モ亦
其當該高等官ヲシテ之ヲ任命セシメ其操行ニシテ苟モ不都合ナ
キ間ハ其職ヲ保タシムルヲ可ナリトナス、抑モ官吏ノ其職ニ適シ、
其職ニ安シ且ツ其獨立ヲ保持スルハ財政ノ運行ヲシテ良美ナ
ラシムル須要條件ナリ、又名譽職トシテ無俸給ニテ公民ノ多數ヲ
シテ行政ニ參與セシメ以テ有給官吏ト共ニ其事務ニ當ラシムル

ハ望マシキ事ナリ、即チ夫ノボルチモール市ノ習慣トシテ公債ヲ
以テ充ツヘキ巨額ノ經費ハ必ス人民ノ批准ヲ俟ツカ如キハ民主
政治ノ良遺風ニシテ頗ル贊賞スルニ堪ヘタリ、而シテ此民意ヲ問
フノ事ハ、レフエレンダムト稱シ風ニ瑞西ニ於テ良果ヲ奏セシモ
ノニシテ吾米國州、市及其他ノ地方政治區ニ於テモ宜シク洽子ク
之ヲ採用スヘキモノナリ、即チフ^非ラデルフ^非ヤ瓦斯事業ノ如キ公有
財産ノ處分ハ必ス人民ノ投票ヲ以テ之ヲ定ムルニ非サレハ不可
ナルモノナリ、蓋シ斯カル方法ヲ規定スルトキハ社會ノ公有財産
ヲ略有セントスル諸種ノ惡策ヲシテ忽チ其跡ヲ絶タシムルヲ得
ヘキナリ、

一年ノ經費ハ前年ニ於テ豫メ徴收セサ
ルヘカラス

メーリーランド州ニ於ケル諸郡ハ多クハ漫リニ金錢ヲ支消シ去リ而シテ後其經費ヲ補充センカ爲メ租税ヲ徵收スルヲ以テ常ニ滯滞ノ弊習ヲ生シ爲メニ實際ノ經驗アル有識官吏ノ非難スル所トナリタリ此方法タル實ニ不可ナリ、一年ノ經費ハ其豫算額ニヨリテ豫メ前年ニ於テ徵收セサルヘカラス、

租税速納ノ割引

此問題ニ就テハ余ハボルチモール市租税委員會ノ報告書中ヨリ摘録スル所アラントス、而シテ余カ平素ノ意見モ亦其文中ニ包含セルヲ以テ余ハ更ニ之ヲ補修スルノ必要アラサルナリ、曰ク

「然レトモ第三十五條及第三十六條ハ必要ナル改正條項ト謂ハサルヘカラス、夫レ熟シ之レヲ往年ノ有様ニ觀ルニ租税ハ其賦課スル翌年ノ一月一日ニ至ル迄ニ之ヲ入納スレハ可ナリシナリ、

然ルニ之カ爲メ敢テ一ノ責罰ヲモ設ケタルヲナク、又實際市廳モ右ノ日限以前ニ之ヲ督促スルヲ能ハサリキ、抑モ此事タル古來ノ宿弊ニシテ其不便ナル疾ク既ニ世人ノ感知シ得タルモノナリシニモ關セス、其久シク非難ノ聲ヲ聞カサリシハ定ニ怪訝ノ至リト謂フヘシ、何トナレハ何人モ其年ノ終末ニ至ラサレハ租税ヲ納ムルヲナキヲ以テ爲メニ市廳ハ財政上ノ必要ニ迫ラレ一時ノ負債ヲ起シテ以テ其時々ノ費用ニ充テサルヲ得サレハナリ、

然ルニ千八百三十五年ニ至リ當時ノ市收稅官エフ、ジエー、ダラム (E. J. Dallam) 氏ハ其年報中ニ一説ヲ提出シテ曰ク、時期ヲ誤ラステ迅速ニ租税ヲ納ムル者ニハ納稅ノ割引ヲ許シテ其速納ヲ奨ムルヲ恰モ他市ニ於テ實行スルカ如ク、又他方ニ於テ

ハ一定ノ期日ニ至ルモ尙ホ未納ノ者ニハ其税額ニ利子ヲ附加
シテ之レヲ罰スヘント、此説タル尋イテ千八百三十六年第六十
二號決議ヲ以テ愈々實施セラレタリ、是ニ於テ速納割引法始メテ
ホルチモールニ行ハレ、毎年一月一日以後ニ亘ツテ滞納スル者
ニハ年利六分ヲ罰納セシムルトナレリ、此方法ハ今日ニ至ル
迄其効力ヲ保チテ依然存在シ、度々論難ニ會シ批評ニ逢ヒ賛成
反對ノ聲紛々タリシモ遂ニ未タ廢止セラル、ニ至ラザリナ
リ、

吾人ノ考フル所ニテハ速納割引法ハ不正不理ナルモノナルカ
如シ、千八百四十四年就勸ノ市收税官シエー、ビー、サイデンスト
リックケル(J. B. Seidenstricker)氏嘗テ論シテ曰ク、是レ納税者ニ
向テ只々其義務ヲ履行セルノ故ヲ以テ恩賜ヲ與フルニ外ナラ

スト、是ヲ以テ我國ニ於テ良政ノ名アル諸市府多クハ皆此方法
ヲ廢止セリ、又之レヲ廢止セサル一二ノ場合アルモ皆其割引額
ヲ極メテ僅少ニ減レタリ、ホストン市在定官會議長トーマス、ヒ
ル(Thomas Hill)氏曰ク、余ノ知ル所ヲ以テスレハホストンニ於テ
ハ二十五年間以上割引法ノ採用セラレタルトアルヲ見ス、蓋シ
之ヲ用フルト否トハ地方任意ノ事ニ屬スレハナリ、何處ノ都府
ニテ此方法ヲ實施スルモ皆其中止ニ就テ屢々世上ノ物議ヲ醸
セリ、特ニ市府ハ貧富ノ區別ナク一様ニ課税スルモ、該法アルカ
爲メ富者ノミ獨リ利益アル地位ニ立ツノ不公平アリ、余ハ寔ニ
正當ノ理由ナリト考フト云フ一點ニ於テ大ニ世論ヲ喚起シタ
リト、

千八百八十四年ニ於テ速納割引ノ爲メ金錢ヲ支出シタルモノ

九萬九百六十七弗十九仙ニシテ其最も甚シカリシハ實ニ千八百七十七年ニ於ケル十九萬二千八百四十四弗八仙ナリトス、而シテ最近十五年間ノ實狀ヲ觀察スルニ何レノ年ニ於テモ其七萬五千弗ヨリ以下ナリシト未タ曾テ之レアラサリシナリ、勿論此減少額タル若シ之レヲ放任シテ處スル所ナクシハ爲メニ市庫收入ノ不足ヲ來タスヲ免レサルヲ以テ常ニ其補充手段ヲ運ラシタリ、即チ毎年租税ノ徵收額ヲ算定スルニ當リ豫メ其年ノ割引減少額ヲ計算シ以テ税率ノ高下ヲ定メタルナリ、是故ニ吾人ハ速納割引法ヲ廢止センコトヲ勸告セサルヲ得ス、而シテ毎年市庫ノ缺乏久キニ亘ルノ弊ヲ防カンカ爲メ更ニ其方法ヲ講セサル可カラサルノ事實ヲ認メ、吾人ハ其必要ニ應センカ爲メ第一號市令ニ於ケル第三十五條及第三十六條ノ條項ヲ

制定セリ、又小資産ノ人ヲシテ租税負擔ノ困難ヲ感セサシメシカ爲メ一年ノ租税ヲ四月十五日、七月十五日、十月十五日及翌年一月一日ノ四納期ニ分チ以テ納税者ヲシテ各其便宜ニ從ハシムヘキコトヲ規定セリ、蓋シ此方法ニヨルトキハ割引法ヲ採用セサルモ市廳ハ何時ニ於テモ財政ノ逼迫ニ苦シムコトナカルヘク、又今日ノ如ク一時ニ其租税全額ヲ納ムル能ハサル人々ニ對シテ特ニ便利ヲ與フルニ足ル可キナリ、

第三十六條ニ於テハ割引ノ報償ヲ懸ケテ速納ヲ獎勵スル從來ノ慣例ニ反シ、若シ滯納スル者アルトキハ一ヶ月納税額百分ノ一ノ割合ヲ以テ罰金ヲ課スルノ法ヲ設ケ以テ滯納ノ弊ナカラシムコトヲ計レリ、此外租税滯納ノ強制處分ニ關スル現行法律及命令ノ如キハ敢テ之ヲ改ムルコトナシ、唯收税吏ニシテ命令ニ反シ

定期ニ至ルモ其義務ヲ果サ、ル滞納者アルヲ知リテ問ハサルカ如キ事ナカラレメンカ爲メ免職ノ制裁ヲ定メテ之ヲ豫防レタルノミ、云々、

人或ハ曰ク市外ニ生活セル人民ハ其田圃ノ產物ヲ賣却シテ一年只一タヒ其收入ヲ享受スルモノナルカ故ニ凡ヘテ農産ニ關係アル人民ノ爲メニハ一時一回ニ納税セシムルヲ實際便利ナラント、夫レ然リ若シ果シテ四期分納法ヲ用フル必要ナクンハ固ヨリ現行法律ヲ改正スルヲ要セサルヲ言フ筈タス、然レトモ余カ茲ニ四期分納法ヲ取ル所以ノモノハ必竟直税ヲシテ及フ可キ限り間税ノ便利ヲ有センメント欲スルニ外ナラス、四期分納法ハ「サツアン」ニ於テ行ハル、モノニシテ其警察長「ゼチラル」アンダーソン(Anderson)ノ余ニ告ケタル所ニ據レハ人民ハ之カ爲メ大ニ便利ヲ蒙リント

云フ、蓋シ中等或ハ下等社會ノ人民ニ對スル法律ノ効果如何ヲ觀察シテ其說ヲナスモノ警察官ニ若クナキヲ考フレハ氏ノ所說ノ肯綮ヲ得タルヤ固ヨリ疑フヘカラス、之レト同時ニ租税部ノ長ナル「メーショナル」ハーディー(Hardie)モ亦余ニ告グルニ此法ニ依レハ一年間ニ於ケル勤勞ノ分配其宜キヲ得ルヲ以テ何等ノ不便ナク、制規以外ノ役員ヲ要スルヲナキヲ以テセリ、而シテ氏ハ又實ニ此法ニヨレハ其分期收納タルノ故ヲ以テ收税ノ困難極メテ少ク爲メニ積極的ノ利益アルヲ稱示セリ、

カナダナル「クエベック」ニ於テハ時々租税ヲ分納スルヲ許セリ、而シテ其人民ニ與フル便利ニ就テハ皆同一ノ例證ヲ示セリ、「クエベック」ノ貧民ハ租税官吏ノ煩勞ヲ來サス又納税ヲ遲滞セサルコト遙カニ富民ノ上ニ在リト、又四期分納法ハ獨逸ノ市府ニ於テハ一般

ニ採用セラレ頗ル利益アルモノ、如シ共和政治ノ米國ニシテ其人民ヲ取扱フ豈ニ帝政ノ獨逸ヨリモ等閑ニシテ可ナランヤ、見ヨホルチモールノ細民ハ一期收納法ニヨリテ納税スルノ困難ヲ想ヘ、又其結果トシテ悲ムヘキ事實ノ屢々生スルハ吾人ノ時々見聞スル所ナラスヤ、

市租税委員會ノ決議ニ係ル此改正法ニ就テハ市廳内租税部役員大ニ反對セルノ説往々吾人ノ耳朶ニ達セリ、然レモ余ハ彼等ホルチモール市民ノ公僕ノ勸恪着實ナルヲ充分ニ了知スルニモ拘ラス余ハ市廳官吏社會ノ大部分間ニ行ハル、避クヘカラサル反對アルヲ見テハ決シテ黙シテ止ム能ハス、又余ハ如何ニ考フルモ租税部吏員ノ願望ヲ納税者ノ願望ノ上ニ位セシムルヲ能ハサルナリ、若夫レ此法ヲ採用スルカ爲メ役員ノ數ニ不足ヲ告クルカ如

キトアラハ更ニ之ヲ増備スルモ可ナリ、三四人ヲ増加セハ事則チ充足センノミ、故ニ余ハ飽ク迄モ千八百八十六年ニ於ケルホルチモール委員會報告ノ説ヲ固守シ此市ヲシテ四期分納法ヲ採用セシメントテ欲シテ止マサルノミナラス、更ニ進シテ他市ニ向テモ亦之ヲ勸メント欲スルナリ、然レトモ余ハ郡ノ收税期ニ關シテハ其便宜ニ任シテ可ナリト信ス、是等ノ地ニ在リテハ少クトモ一年一回ヲ缺カス成ル可ク其回数ヲ多クシ以テ納税ノ迅速ナラントヲ期セサルヘカラス、

次に摘録セルメリーランド州租税委員會ノ報告文ハ市及郡ノ行政機關ニ於ケル租税査定法ノ要領ヲ示スモノナリ、此問題ニ關シテハ各委員ノ大ニ思考ヲ勞シタルモノニシテ其方案ノ如キハ各州市ノ必要ニ應シテ多少取捨斟酌スルヲ可トスト雖モ之ヲ實

行セハ良果ヲ收ムルニ難カラサルヘシ、但シ左ニ抄録セル文ハ少シク取捨修正ヲ加ヘタルモノナリ、讀者之レヲ諒セヨ、

郡ノ租税部組織

本州(メーリリーランド)ニ於ケル各郡ノ出納長ハ又其査定局ノ議長タルヘシ、該長官ハ毎年十二月一日前ニ其郡内ノ三收税區ニ各二人ノ査定官ヲ任命スヘシ、若シ收税區數ノ都合ニ依リ三區ニ分割スル能ハサル時ニ於テ其分割終リタル後尙ホ他ニ二區存スルトキハ特ニ一人ヲ増任スヘシ、他ノ場合ニ在リテハ一人タリトモ増任スルヲ得ス、若シ或郡ニシテ數撰舉區ニ分割シ居ラサルトキハ郡務委員ハ適宜ノ數査定區ニ之ヲ分割スヘシ、然レトモ其査定區ハ決シテ撰舉區ト境域ヲ同フセムヘカラス、而シテ郡出納長ハ毎年十二月一日前ニ是等ノ三査定區ニ對シ各二人ノ査定官ヲ任

命スヘシ、該長官ハ明記セル事由ニヨリテ其任命セル査定官ヲ免職スル充分ナル權カヲ有スヘシ、査定官ノ任命ハ政治主義ノ如何ニ關スヘカラス、千八百八十八年ニ行フヘキ査定官ノ任命法ハ其ノ總數ヲ三分シテ各一ケ年、二ケ年、三ケ年ノ就職者ヲラシムヘシ、其後ノ査定官ハ免職セラル、ノ外各三ケ年間に在職セシムヘシ、然レトモ死去、辭職、免職或ハ其他ノ事由ニヨリ缺員ヲ生シタル場合ニハ長官ハ新々ニ任命ヲ行ヒ以テ其ノ殘期ノ役務ニ當ラシムヘシ、

各郡ニ於ケル諸區ノ査定官ハ郡出納長ト共ニ其郡ノ査定局ヲ組織スヘシ、該長官ハ毎年十二月査定官ヲ召集シ適宜ニ期日ヲ定メテ査定官ヲシテ其職務ニ關スル法律ヲ聽聞セシメ、又其職務ニ就テ訓示スル所アルヘシ、而シテ特ニ彼等ニ訓示シテ凡ヘテ財産價

格ヲ査定スルニハ其充分ナル正價ニ準據セシメ決シテ強制賣買價格ニ由ラサラシメンコトヲ努メサルヘカラス、又彼等ハ其職務ニ就キ互ニ相協議スヘシ、
郡出納長ハ毎年一月ニ於ケル三週間必ス毎週一回ツ、其郡ニ於テ發行セラル、二種以下ノ新聞紙ヲ以テ(若其郡内發行ノ者ナキトキハ其郡ニ行ハル、新聞ニヨルヘシ)採メ渡シ置キタル財産申告式紙ニ適當ニ記載署名シテ二月一日迄ニ其所屬區ノ査定官ニ届出ツヘキコトヲ二十一歳以上ノ人々ニ告知スヘシ、尤モ毎回ノ廣告ニハ郡内諸區ニ屬セル査定官ニ宛ツ可キ郵便局名ヲ明示スヘシ、又該長官ハ毎年一月一日頃此法律ニ定メタル財産申告式紙ヲ印行セシメ査定官ニ渡シ置クヘシ、
各査定官ハ毎年一月十日前ニ其所屬區ノ租税帳簿ニ記名アル人

々及ヒ其區ニ於テ住處氏名ノ判然タル人々ニ此條項ニ規定セル財産申告式紙ヲ郵送スヘシ、各式紙ニハ明白ニ査定官ノ氏名及該紙ヲ差出スヘキ郵便局名ヲ記載スヘシ、
財産申告式紙ニ故意虚欺ノ記載アルヲ知リテ之レニ署名セル者ハ輕罪ヲ以テ之レヲ論シ、審判ノ後一年乃至十年ノ禁錮ニ處シ其罪ヲ懲戒スヘシ、
若シ此條項ニ從ヒ財産申告書ヲ差出サ、ル者アルトキハ査定官ハ其課税スヘキ財産及收入額ヲ取調ヘタル上其全額ノ一割ヲ加算スヘシ、尤モ加算ノ事ハ反則者ニ向テ通知セサルヘカラス、然レトモ若シ反則者ニシテ其年ノ五月十五日前ニ於テ其不送ノ事由ニ關シ正當ノ説明ヲナシテ加算金ノ減除ヲ請願シ同時ニ完全ナル申告書ヲ提供スルトキハ郡出納長ハ其請願ニ應スルノ權アル

ヘシ、

各郡ノ査定官ハ每週一回郡出納長ノ官署ニ會シ各其調製セル財産評價簿ヲ差出スヘシ、各評價簿ハ全會ノ檢閲ニ附シテ修正變更シ以テ之ヲ平均ニスヘシ、又評價簿ハ討議ニヨリ多數決ヲ以テ宜キニ從ヒ議決スヘシ、但シ若シ毎二週一回ノ會議ヲ以テ其事務ヲ了ル能ハサルトキハ長官ハ五月一日乃至十日ノ間ニ於テ再ヒ査定官ヲ會シ以テ其殘務ヲ取扱ヘシムルヲ得ヘシ、

郡出納長ハ後條ニ定メタル如ク査定官會議ニテ議決セル財産評價簿ヲ郡務委員ニ廻送セサルニ先チ能ク之レヲ檢閲シ其評價セル財産額中ヨリ無稅品ノ價格ヲ差引キ之ト共ニ査定官ノ評價シタル品目并ニ其價格ヲ裏書シ、而レテ各納稅者ノ課稅スヘキ財産ニ對スル全評價額ヲ示スヘシ、

郡出納長ハ毎年五月十五日前ニ査定官會議ニテ決定セル財産評價簿ヲ郡務委員ニ廻送シ、之レト同時ニ規則ニ從ヒ財産申告書ヲ差出サ、ル納稅者ノ氏名ト其財産金額十分ノ一ヲハ査定官會議ニヨリ其反則者ノ財産價格ニ加算シタルトヲ通知スヘシ、其廻送セラレタル評價簿ハ二十日間郡務委員ノ事務署ニ留置キ之レニ關係アル人々ヲレテ檢閲センムヘシ、但シ不動産ノ評價簿ニ限リ公開檢閲ヲ許スヘシ、

課稅ノ爲メ郡務委員ニ報告セラレタル財産ニ關係アル人々ハ毎年五月十五日乃至六月五日ノ間ニ於テ査定官會議ノ評價ニ對シ不服アルトキハ郡務委員ニ起訴スルヲ得、而レテ該委員ハ其訴訟ヲ審理判決シ其公平正當且ツ適法ト認ムル所ニ從ヒ其評價ノ正當ナルヲ證明シ或ハ其不當ノ點ヲ更正スヘシ、其訴訟ハ凡ヘテ

毎年六月十日前ニ審理セサルヘカラス、郡務委員ハ此規則ニ從ヒ財産報告ヲナサ、ル納税者ニ對スル財産全額一割ノ加算額ヲ減除スルニ當リ其加算セラレタル額ト認ムルモノ、外ハ之ヲ減除スルコトヲ得ス、然レトモ若シ該委員ニシテ關係人ノ陳述ヲ聽キ充分ニ之ヲ審理シタル後反則者カ期限内ニ其財産報告書ヲ提供セサリシハ全ク故意ニ出テ、脱税ノ意アリタルモノト認定スルキハ更ニ其課税スヘキ財産全價格ノ二割乃至五割ノ金額ヲ加算スヘシ、

市査定官

ホルチモール市ニ於テハ他ノ市吏員任命ト同一ノ法ニヨリ適當ナル十六名ノ人員ヲ舉ケテ市査定官ニ任命シ以テ該査定官ノ評價ヲ免シタル財産若シクハ不動産ヲ除クノ外當市内ニ於ケル課

税スヘキ財産及ヒ所得並ニ市内住民ノ所有ニ屬スル財産及ヒ所得ヲ査定セシムヘシ、該査定官ノ任命ハ決シテ政治主義ノ異同ヲ論スヘカラス、而シテ其俸給ハ各員一年千五百弗タルヘシ、彼等ハ法令ニ定メタル宣誓ヲ行ヒ、又他ノ市吏員ノ如ク其職務ヲ忠實ニ履行スルノ證トシテ身元保證金ヲ納ムヘシ、該査定官ノ任命終リタルトキハ市長ハ直チニ其一人ヲ指名シテ査定官會議長タラシムヘシ、該會議長ハ市長カ免職ヲ命スルニ非サレハ査定官ノ任期終ル迄其資格ヲ以テ職務ヲ繼續スヘシ、若シ會議長ニ缺位生スルトキハ市長ハ再ヒ査定官中ノ一人ヲ指名シテ其任ヲ繼カシムヘシ、

千八百八十八年ニ於ケル査定官任命ノ方法ハ全數ヲ四分シ、其内四人ハ一ケ年、四人ハ二ケ年、四人ハ三ケ年、四人ハ四ケ年ノ任期ト

定メ、同年三月一日ヨリ其任期ヲ算スヘシ、但シ任期長短ノ配當ハ第一會議ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ、以後ハ毎年二月ニ於テ四人ノ査定官ヲ任命シ其年三月一日ニ滿期トナルモノニ代ラシムヘシ、而シテ本條項ノ規定ニヨリテ任命セラレタル査定官ノ任期ハ四ケ年タルヘシ、若シ市査定官ニシテ死去、辭職、免職、資格喪失或ハ其他ノ事由ニヨリ缺員ヲ生シタルトキハ更ニ任命ヲ行ヒ以テ其殘期間ノ職務ヲ托スヘシ、

千八百八十八年以後毎年二月ニ於テ他ノ市吏員任命ト同一ノ法ニヨリ市査定官附屬ノ書記一人ヲ任命シ、一ケ年千五百弗ノ俸給ヲ與フヘシ、書記ハ毎日査定官署ニ出勤シ會議ノ頭末ヲ細大トナク書留ムヘシ、書記ハ該署ノ記録ヲ散逸セサル様注意シ又該署ニ

宛テ送レル若シクハ預リ置クヘキ諸文書ヲ受取ルヘシ、公開檢閱ヲ許セル諸種ノ文書及記録ヲハ能ク順序ヲ立テ又見出シニ便ナラシムヘシ、査定官ノ調製セル財産評價簿結了シタルトキハ書記ハ直チニ其寫本ヲ造リ租税裁判所書記ニ廻送スヘシ、又毎年二月二十五日迄ニ査定官署ニ殘留セル財産評價ノ寫本ヲハ其終結未終結ニ論ナク租税裁判所書記ニ廻送スヘシ、査定官調製ノ評價簿ニ關シ租税裁判所ニ起訴アリタルトキハ直チニ同所書記ニ其訴訟ニ關係セル凡ヘテノ書類ヲ廻送スヘシ、尙ホ書記ハ以上ノ外其職務ニ關スル種々ノ義務ヲ履行スヘシ、市長ハ若シ必要ト認ムルトキハ以上ト同様ノ方法ニヨリ副書記ヲ任命スルヲ得、但シ副書記ノ俸給ハ一ケ年千二百弗ニシテ、其職務ハ査定官ノ指揮ニ從ヒ正書記ヲ補佐シテ其職務ヲ遂ケシムルニアルヘシ、

市査定官ハ一般ノ事務ヲ處理センカ爲メ、或ハ又特ニ其財産評價簿ニ不服ニシテ起訴セルモノヲ審査センカ爲メ少クトモ每週一回會議ヲ開クヘシ、

市査定官ハ其會議ニ於テ該會議ノ方法、各査定官ノ財産評價法及ヒ訴訟審判ノ日時場處及方式等ニ關スル規則ヲ定メ、又證人ノ召喚及記録文書ノ差出ヲ要求スルノ權アルヘシ、若シ該會議ノ要求ニヨリ證人トシテ出頭シ或ハ記録文書ヲ差出スヘキノ命ヲ受ケタル後之ヲ拒絕シ、若シクハ愆チテ其命ニ應セサル者アルトキハ査定官ノ許容スルニアラサレハ五十弗以上一千弗以下ノ罰金ヲ課シ、現今若シクハ今後ボルチモール市ニ於テ行ハル、罰金徵收法ニヨリ之レヲ徵收スヘシ、

ボルチモール市ニ於ケル不動産及借地産

ノ評價法

千八百八十九年四月一日乃至九月一日ノ間ニ於テ市査定官ハ第一區乃至第六區ニ於ケル悉皆ノ不動産及借地産ヲ評價スヘシ、次年四月一日乃至九月一日間ニ於テハ第七乃至第十三ノ各區ニ於テ之レヲ評價スヘシ、第三年四月一日乃至九月一日間ニ於テハ第十四乃至第二十ノ各區ニ於テ之レヲ評價スヘシ、第四年ノ例期間ニ於テハ第一年ニ評價セル分ヲ再調シ、第五年第六年ニ於テハ第二年第三年ノ分ヲ順次ニ再調シ、其後モ連年常ニ三年前ニ評價セル分ヲ再調スヘシ、若シ不動産若クハ借地産ノ價格ニシテ不時ニ著シキ騰昂ヲ見ルノ場合ニ於テハ市査定官ハ即時ニ之レカ再評價ヲ試シ、其事由ヲハ早速其所有主ニ通知スヘシ、而シテ若シ其所有主其再評價ニ不服アルトキハ之ヲ租税裁判所ニ起訴スルヲ得

但シ其起訴期限ハ再評價ノ當日ヨリ二十日間タルヘシ、又火災及
 ヒ其他ノ原由ニヨリ不動産若クハ借地産ノ價格低減セル場合ニ
 於テハ市査定官ハ其所有者ノ請求ニ由リ適當ト思惟スル減額ヲ
 ナスノ權アルヘシ、而シテ若シ其所有主其決定ニ服セサルトキハ
 租税裁判所ニ起訴スルヲ得、但シ其起訴期限ハ該査定官決定ノ當
 日ヨリ二十日間タルヘシ、

不動産若クハ借地産ヲ評價スルニハ市査定官ハ各小土地ヲハ別
 ヲニ評價スヘシ、而シテ其報告書ニハ其各土地ノ存在地名及廣狹
 長短ヲ記載スヘシ、又家屋建物等ノ諸改良物ハ其存在スル土地ト
 分離シテ之ヲ評價スヘシ、而シテ其報告書ニハ其土地ヲ記載スル
 ト同時ニ其諸改良物ノ番號ヲ記載スヘシ、

起訴

市査定官不動産不動産ヲ評價セントスルトキハ各區順次ニ之ニ着
 手シ一區ノ評價ヲ終リテ次區ニ移ルトスヘシ、市査定官會議長
 ハ財産評價ニ着手セサル前ニ於テ各區ヲ數査定區ニ分割シ成ル
 可ク一區各二人ノ査定官ヲ派遣スヘシ、該議長ハ何時ニテモ査定
 區ヲ變換スルヲ得、又該議長ハ査定事務ヲ總裁シ且ツ之レヲ指
 揮スヘシ、該査定官既ニ一區ニ於ケル財産評價ヲ完了スルトキハ
 其評價簿ヲ査定官署ニ備ヘ置キ之ニ關係アル人々ヲノ二十日間
 檢閱スルコトヲ得セシムヘシ、但シ不動産評價簿ヲ除クノ外ハ關
 係ナキ人ニハ一切示スヘカラス、又一區ノ評價既ニ完了スルトキ
 ハ該査定官ハ此市ニ於テ發行セラル、三種以上ノ新聞紙上ニ於
 テ其區ノ財産評價簿借地産、動産、不動産ヲ區別シ査定官署ニ備ヘ
 置キ關係者ノ檢閱ヲ許スヘキ旨及ヒ其起訴期限ヲ廣告スヘシ、

市査定官ノ評價ニ係ル財産ニ關係アル人ハ二十日以内ニ於テ其評價ニ關シ査定官會議ニ起訴スルノ權アルヘシ、若シ尙ホ該會議ノ判決ニ服セサルトキハ更ニ其判決後十日以内ニ於テ租税裁判所ニ起訴スルヲ得ヘシ、而シテ該裁判所ノ判決ハ終審タルヘシ、但シ査定官會議若シクハ租税裁判所ニ於ケル訴訟中ト雖モ決シテ納税猶豫ノ事由タラサルヘシ、然レモ右ノ納税ヲ終ルト雖モ之カ爲メニ決シテ納税者ノ訴訟權ヲ阻害スルコトナカルヘシ、而シテ其後若シ判決ノ結果ニヨリ其評價額ノ低減ヲ許ス場合ニ於テハ既納租税ノ過納額ハ之ヲ返附シ他税ノ内ニ繰入レ或ハ次期ノ納税ニ加算スルコトスヘシ、

ホルチモール市長及市會ハ千八百八十八年ニ於テ租税裁判所ト稱スル一局ヲ創立シ少クモ三人ノ官吏ヲ以テ之ヲ組織スヘシ、而

シテ其内一人ハ二年、一人ハ四年、一人ハ六年ノ任期ト定メ、以後ハ各六年トナシ、常ニ該所ニ會シテ査定財産ノ訴訟及賣買讓與ヲ取扱ヒ、又其財産ノ査定價格ノ修正ヲ掌ラシムヘシ、又市長及ヒ市會ハ査定ニ洩レタル悉皆ノ財産ヲ調査セシムルカ爲メ必要ト思惟スル數人ノ査定官ヲ任命シ、之ヲ査定シテ其結果ヲ租税裁判所ニ通報セシムヘシ、

市長及ヒ市會ハ租税裁判所ニ於テ缺員ヲ生スルトキハ直チニ他ノ市吏員ノ補缺任命法ニ從ヒ其任命ヲ行フヘシ、該所員ノ俸給ハ市長及市會ノ定ムル所ニ依ル、

租税徵收法及州稅地方稅ニ關スル法案ノ全牘ヲ舉ケント欲セハ大ニ本書ノ範圍ヲ超越セサルヲ得サルヲ以テ吾人ハ姑ラク以上掲ケ來リシ其一部分ヲ以テ満足スヘシ、而シテ以上ノ法案中ニ規

定スル所ハ各地方ノ必要ニ應シテ之ヲ變更スルヲ敢テ難キニ非サルヘシ、則チ例セハボルチモール市ニ於テハ一千五百弗ノ俸給ヲ以テ査定官ニ適任ナル人物ヲ使役シ得ヘキモニユーヨーク市ノ如キ相應ノ生計ニ前市ニ倍ノ經費ヲ要スル處ニ在リテハ一層多額ノ俸給ヲ授セサルヘカラサルナリ、蓋シ僅少ナル乞丐的俸給ヲ與フルカ如キハ所謂文ヲ吝ンテ兩ノ貫キヲ知ラサル闇愚者流ノ節儉ノミ、

結論

本著論スル所單ニ理論ノ講究ニ止マラス租税制度改良ノ美ヲ舉ケントスルモノニシテ其説ク所一トシテ經驗ニ徴セサルハナク一トシテ眞民主政ノ本義ニ出テサルハナシ、故ニ其所説タル固ヨリ簡易ニシテ之ヲ實行スルヲ決シテ難カラサルナリ、若夫レ之ヲ以テ複雑ナリトナスカ如キハ是レ只其嶄新ナルカ故ノミ、余自ラ以謂ラク世人若シ仔細ニ之ヲ點檢セハ則チ愈々其贊同ヲ表スルニ吝ナラサルヘント、蓋シ余カ本書ノ著アル其意寔ニ政費ノ分配ヲシテ能ク民力ニ應センメ、行政法ヲ簡易ナラシメ、併ニ商業ヲ拘束セル租税及租税法ヲ排除シ課税ノ範圍内ニ於テ各地一様ノ便益ヲ與ヘ以テ之レカ發達ヲ獎勵セントスルニ在リ、

余願フニ我亞米利加共和政國ノ如キハ實ニ完全ナル租税制度ヲ

創立スルノ好機會ヲ有スルモノニシテ夫ノ舊慣古格若クハ特權ニ制セラレテ進退意ノ如クナラサル歐洲諸邦ノ比ニ非サルナリ、而シテ特ニメーリーランド州ノ如キ財政改革ノ必要一般ニ其急ヲ告クルノ處ニ在リテハ果決勇斷シテ的確ナル租稅制度ヲ設立シ以テ他州ノ嚮導者タラスンハアル可ラス、

威氏租稅論終

明治二十七年五月廿一日印刷

定價金壹圓

同 年五月廿四日發行



翻譯者 東京市芝區白金臺町一丁目五十六番地 家 永 豐 吉
 同 東京市麴町區飯田町五丁目二十七番地 鹽 澤 昌 貞
 發行者 東京市日本橋區通三丁目十四番地 小 柳 津 要 人
 印刷者 東京市日本橋區兜町東京製紙分社 齋 藤 章 達
 發行所 東京市日本橋區通三丁目十四番地 丸善株式會社書店
 印刷所 東京市日本橋區兜町二番地 東京製紙分社

肆書捌賣

東京神田表神保町
 同 新橋竹川町
 同 銀座四丁目
 京都河原町通二條下
 大坂北久寶寺町四丁目
 同 備後町四丁目
 同 北久太郎町四丁目
 同 心齋橋筋一丁目
 名古屋京町一丁目
 同 本町三丁目
 金澤片町
 熊本新二丁目

中 西 屋 邦 太
 共 益 商 社
 博 聞 社
 大 黑 屋 書 店
 東京丸善株式會社書籍店出張所
 梅 原 龜 七
 柳 原 喜 兵 衛
 松 村 九 兵 衛
 野 崎 覺 次 郎
 川 瀨 代 助
 益 智 次 郎
 長 崎 次 郎

肆書捌賣

長崎引地町
 同 酒屋町
 佐賀白山町
 柳川瀬高町
 久留米米屋町
 鹿兒島六日町通り中町
 高知種崎町
 同 塚町
 廣島横町
 岡山上之町
 松江天神町
 富山東四十物町

鶴 野 書 店
 安 中 半 三 郎
 河 內 壯 介
 宮 本 宗 四 郎
 菊 竹 儀 平
 吉 田 幸 兵 衛
 澤 本 幸 駒 吉
 山 中 專 助
 松 村 善 助
 細 網 謹 善 助
 川 岡 清 助
 中 田 書 店

肆書捌賣

新瀨古町通六番町

津大門町

飯田池田町

静岡江川町

濱松紺屋町

仙臺國分町

山形七日町

函館末廣町

神戸相生橋

松山湊町

青森米町

横濱辨天通

櫻井産作

河島九右衛門

奥村收藏

廣瀬市藏

谷島屋源三郎

高藤書店

五十嵐太右衛門

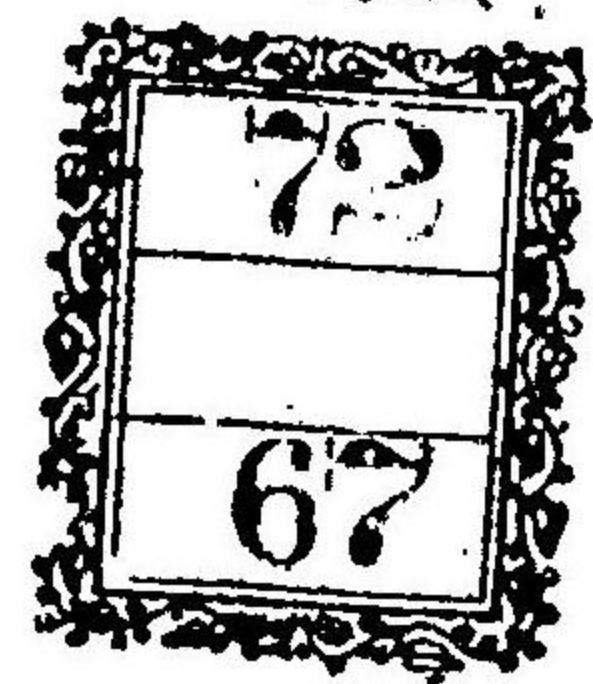
魁文社

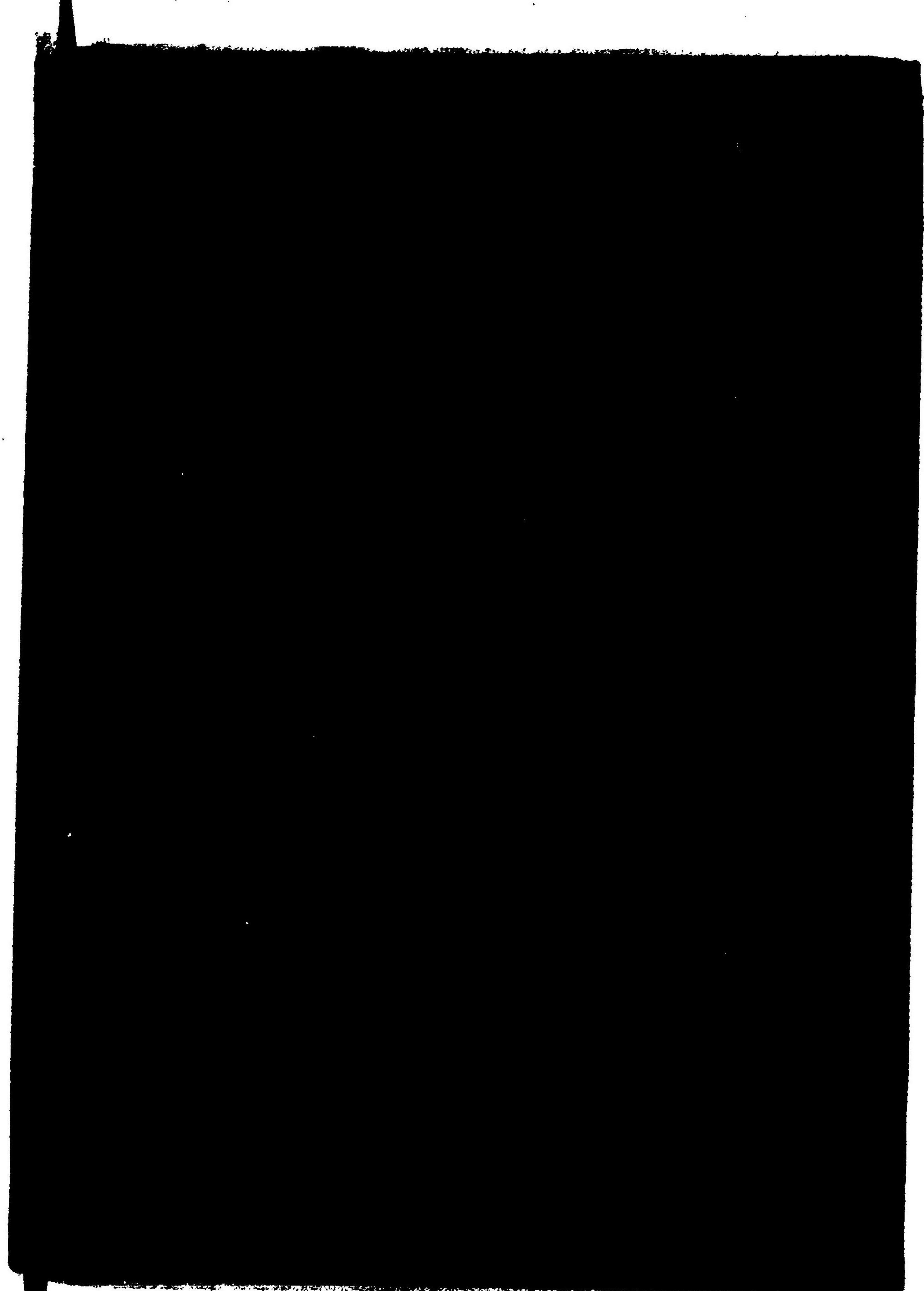
熊谷久榮堂

土肥與兵衛

成田泰

丸屋書店





72
67

040708-000-1

72-67

租税論

イーリー/著

M27.5

BDE-0405



[Faint, illegible text in the left column of the document]

[Faint, illegible text in the right column of the document]